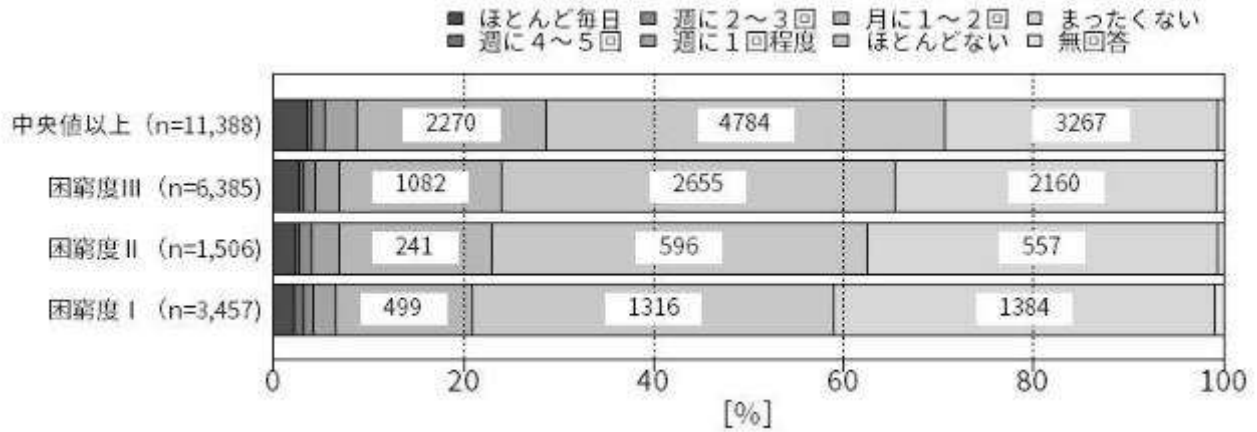


困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

（子ども票 問10⑨）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

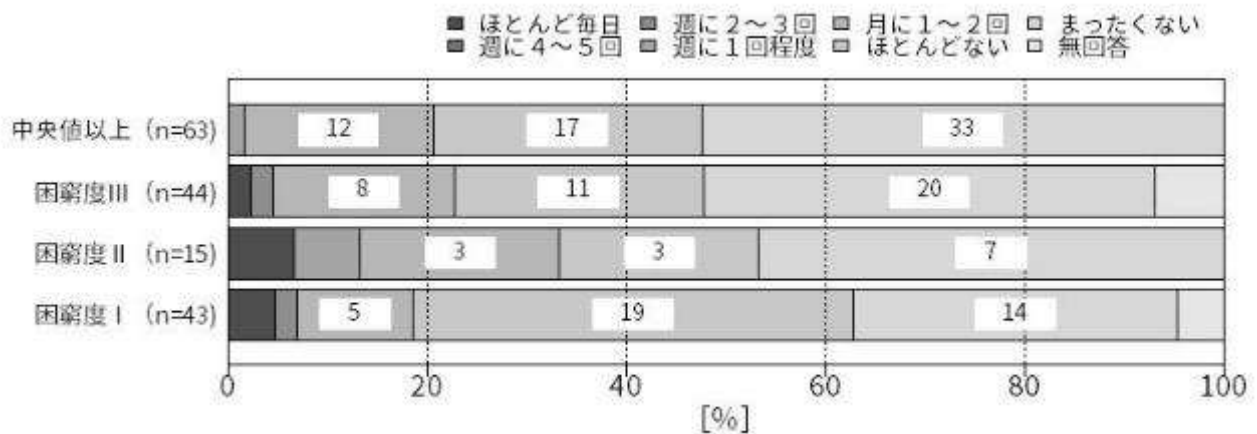
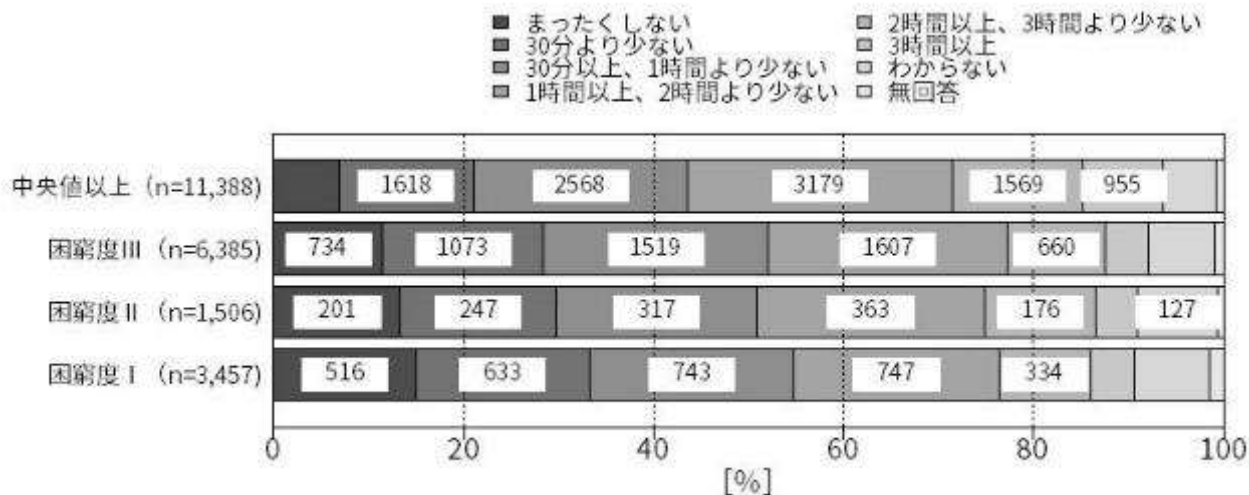


図 209. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどない」・「まったくない」と回答した人の割合が高い傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどない」と回答した人は44.2%、「まったくない」と回答した人が32.6%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 14）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

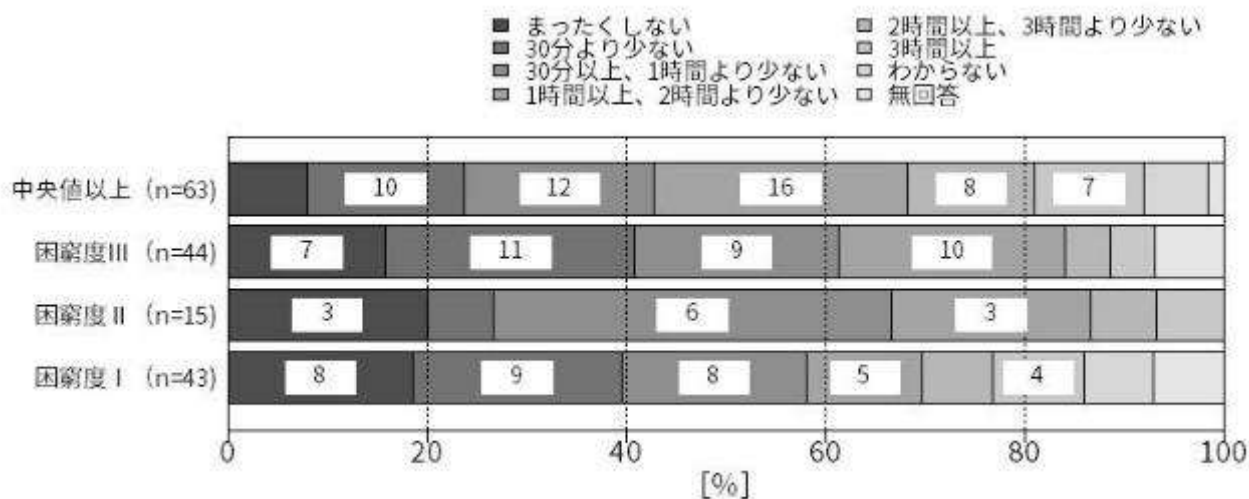
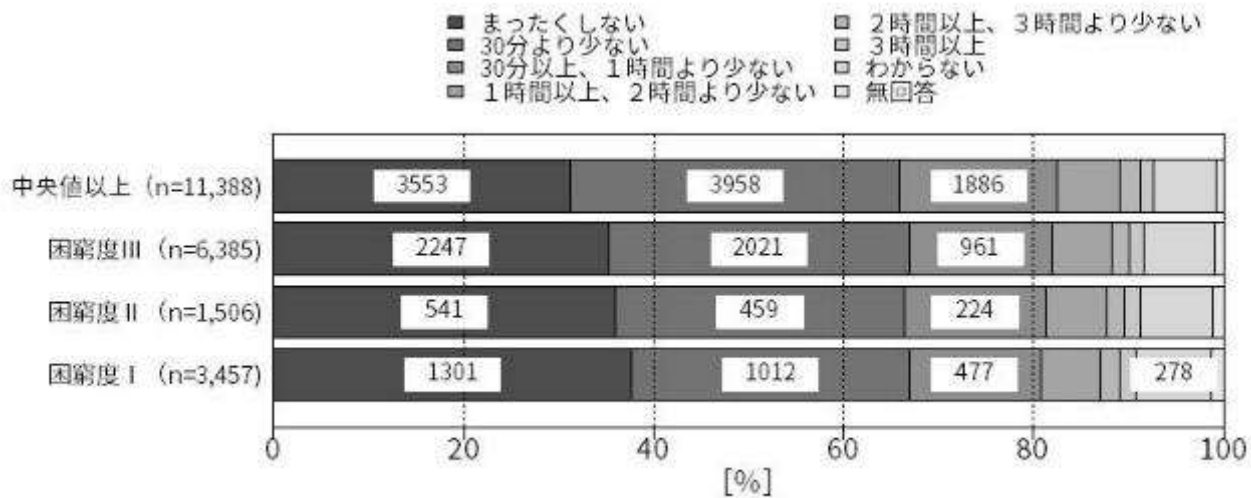


図 210. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間

困窮度別の授業以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は18.6%であった。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問 19）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

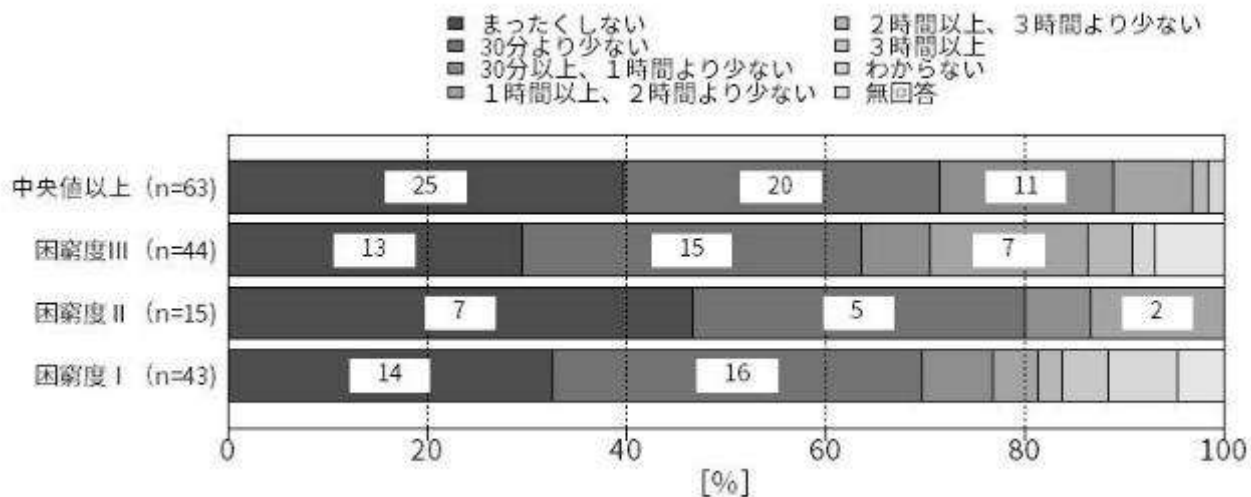
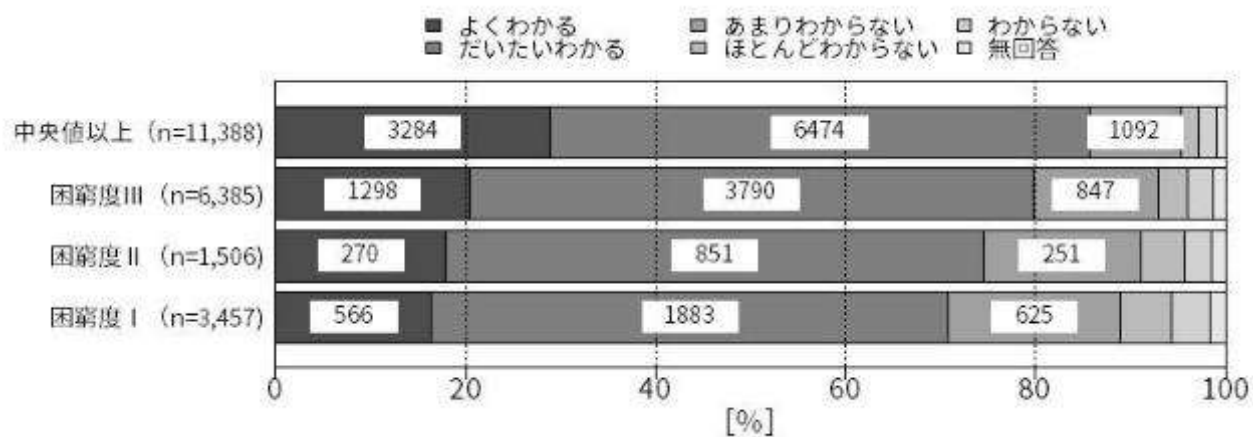


図 211. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別の読書以外の勉強時間を見ると、困窮度の違いで各群間で顕著な違いは見受けられなかった。

困窮度別に見た、学習理解度（子ども票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

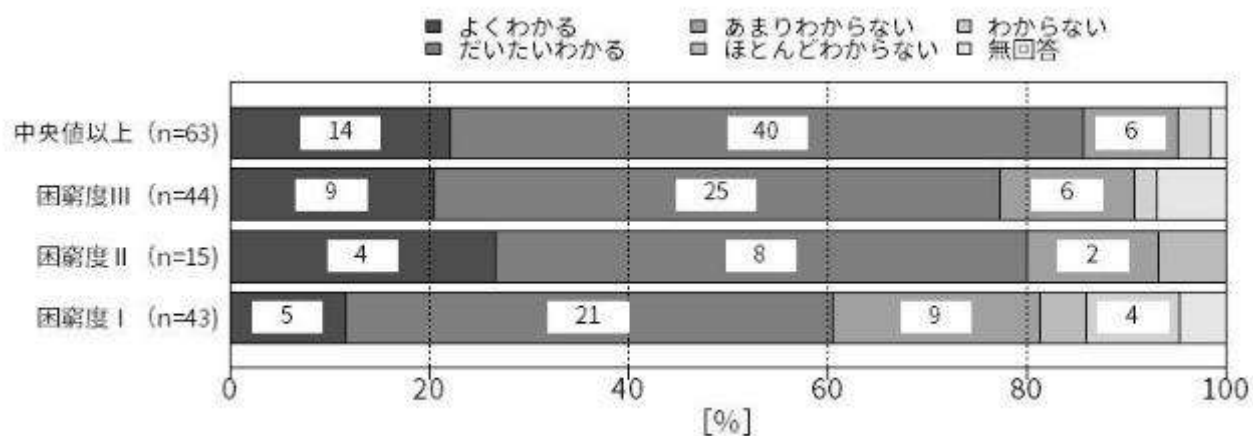
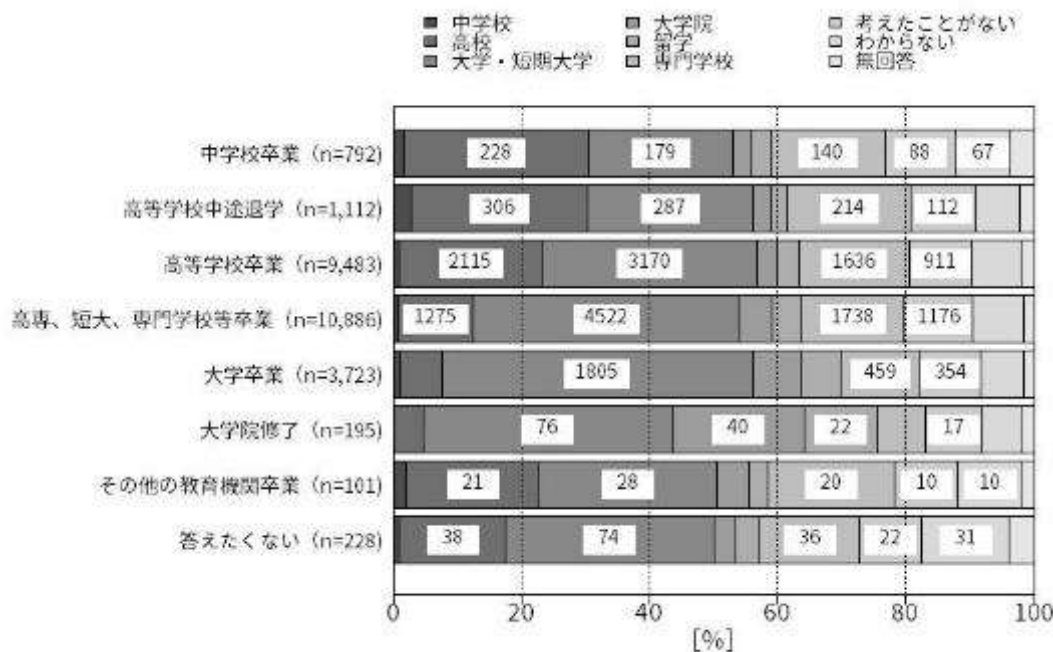


図 212. 困窮度別に見た、学習理解度

困窮度別の学習理解度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどわからない」・「わからない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどわからない」・「わからない」と回答した人は 14.0%であった。

母親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

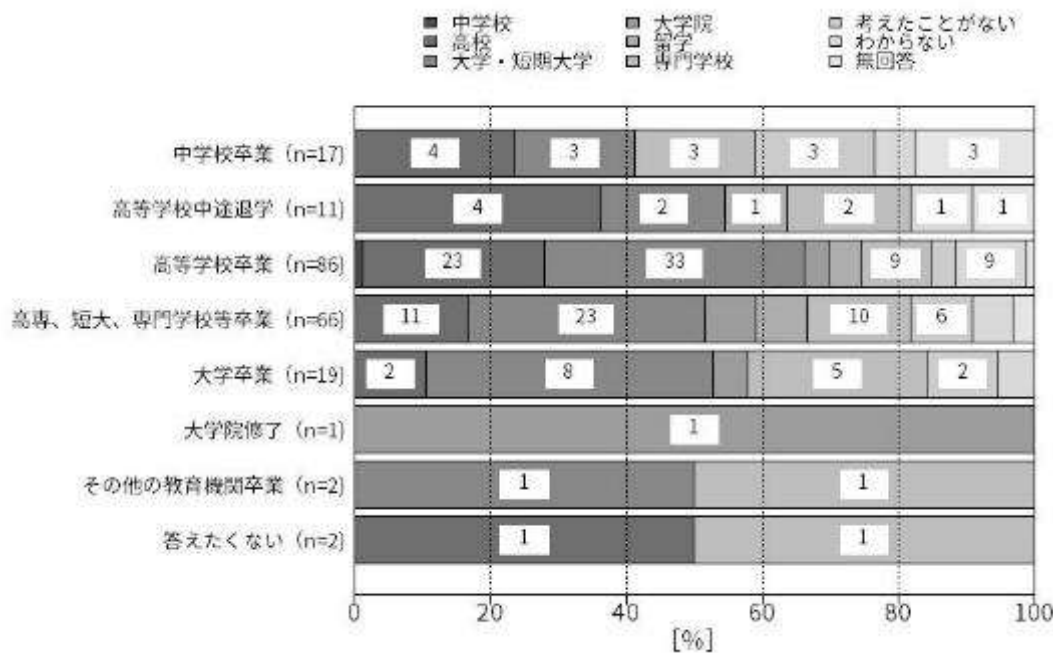
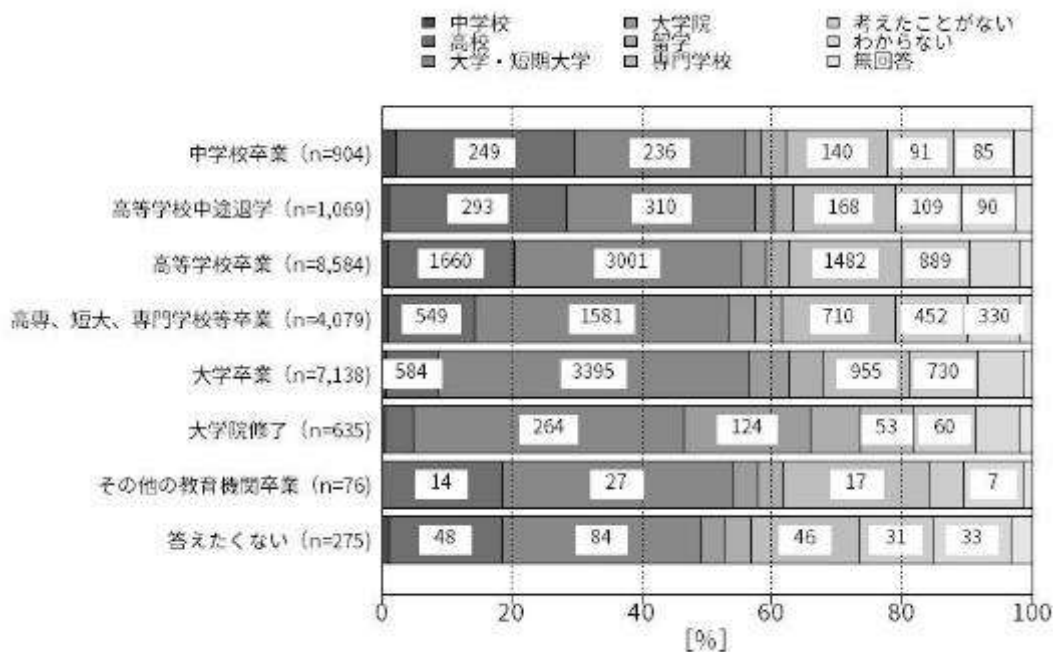


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒または高校中途退者では、「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にある。「大学・短期大学」の回答は中学校卒業群では17.6%、大学卒業群では42.1%であった。

父親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

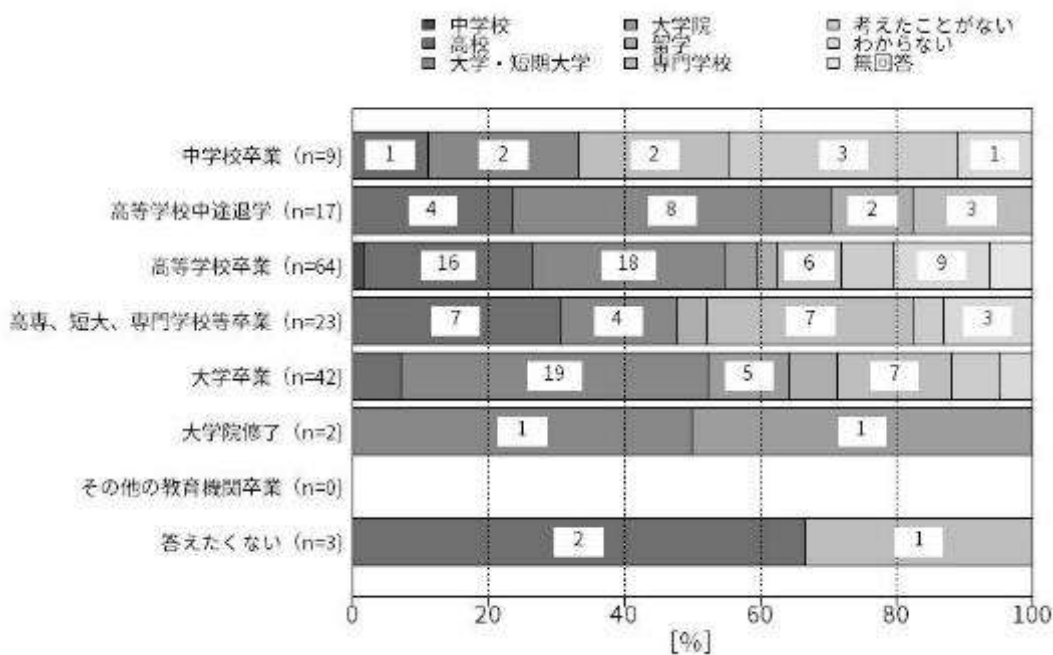
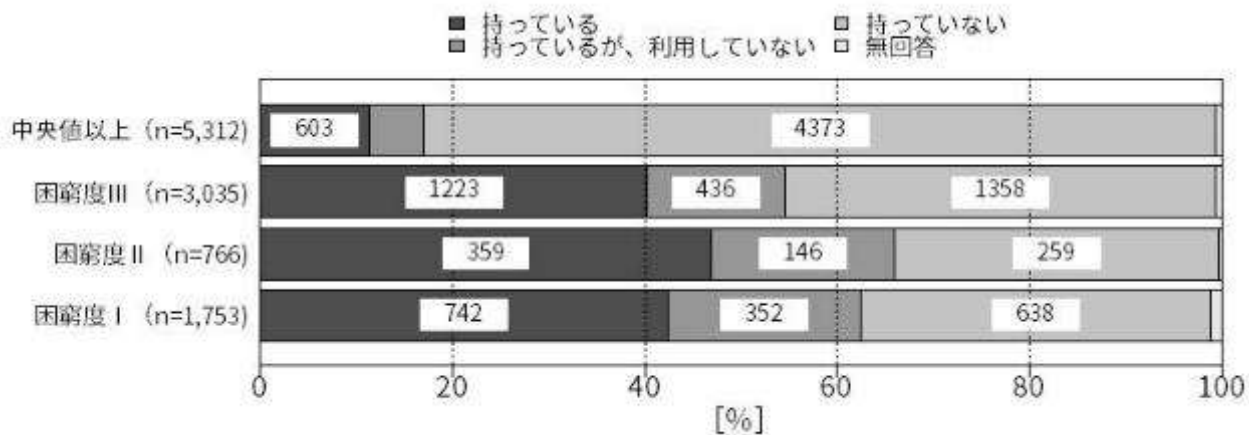


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒または高校中退者では、「高校」までと回答した子どもの割合が高くなる傾向にある。高等学校卒業群、高専、短大、専門学校等卒業群、大学卒業群ではいずれも「大学・短期大学」の割合が高く、大学卒業群では42.1%であった。

困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況（保護者票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

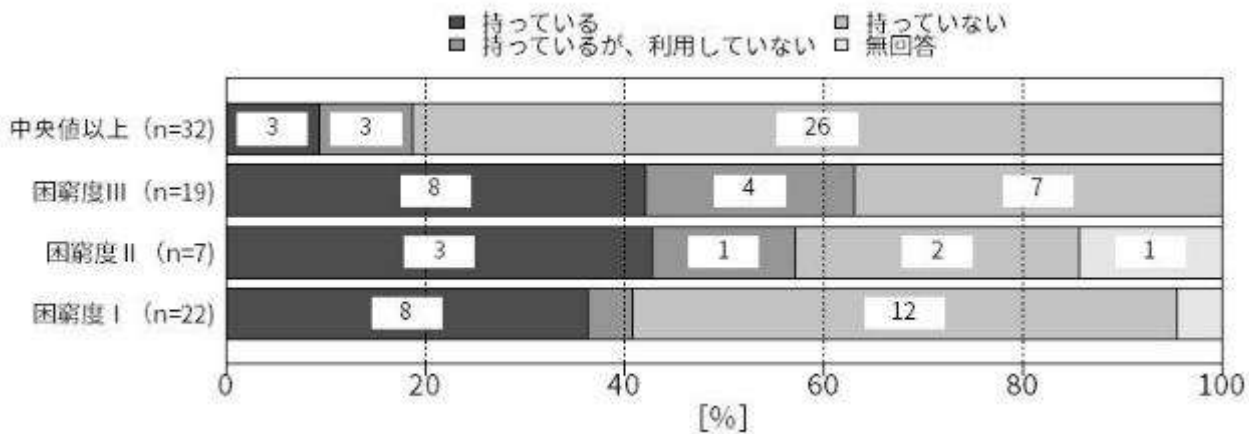
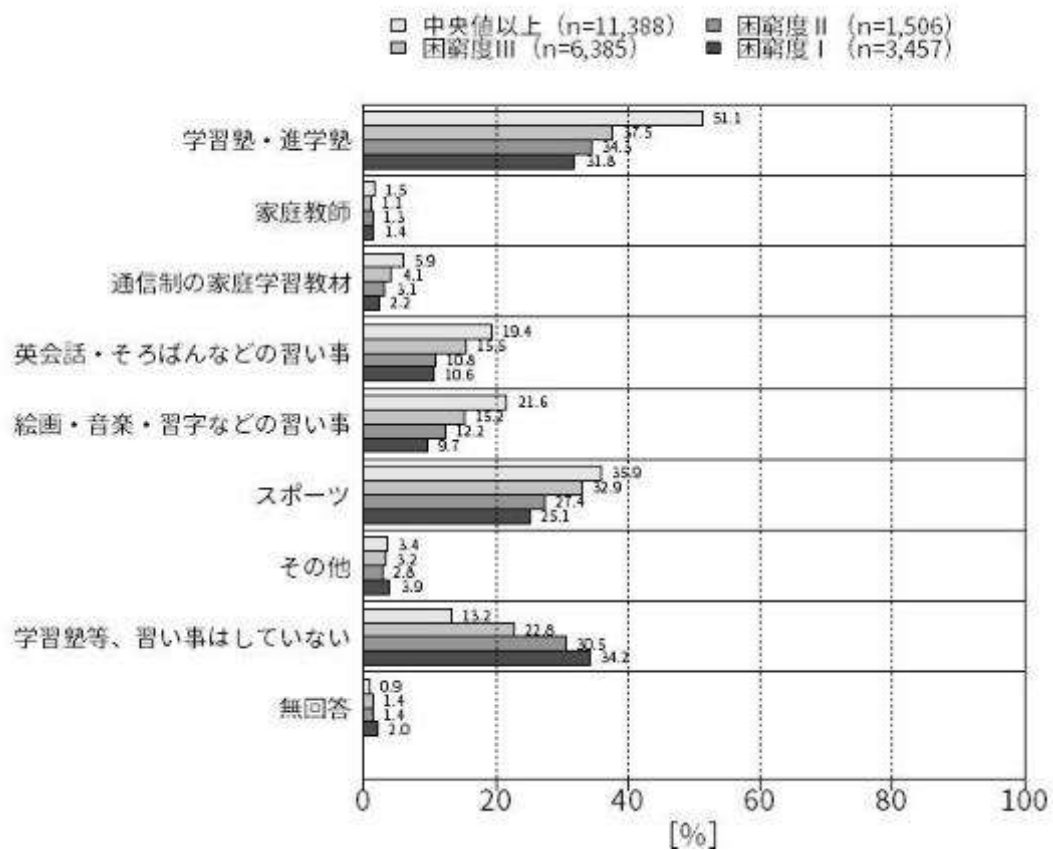


図 215. 困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度Ⅰ群では、塾代助成カードを「持っている」が36.4%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では42.9%、困窮度Ⅲ群では42.1%であった。中央値以上群では9.4%であった。

困窮度別に見た、学習塾等の利用状況（子ども票 問15）

<大阪市 24 区>





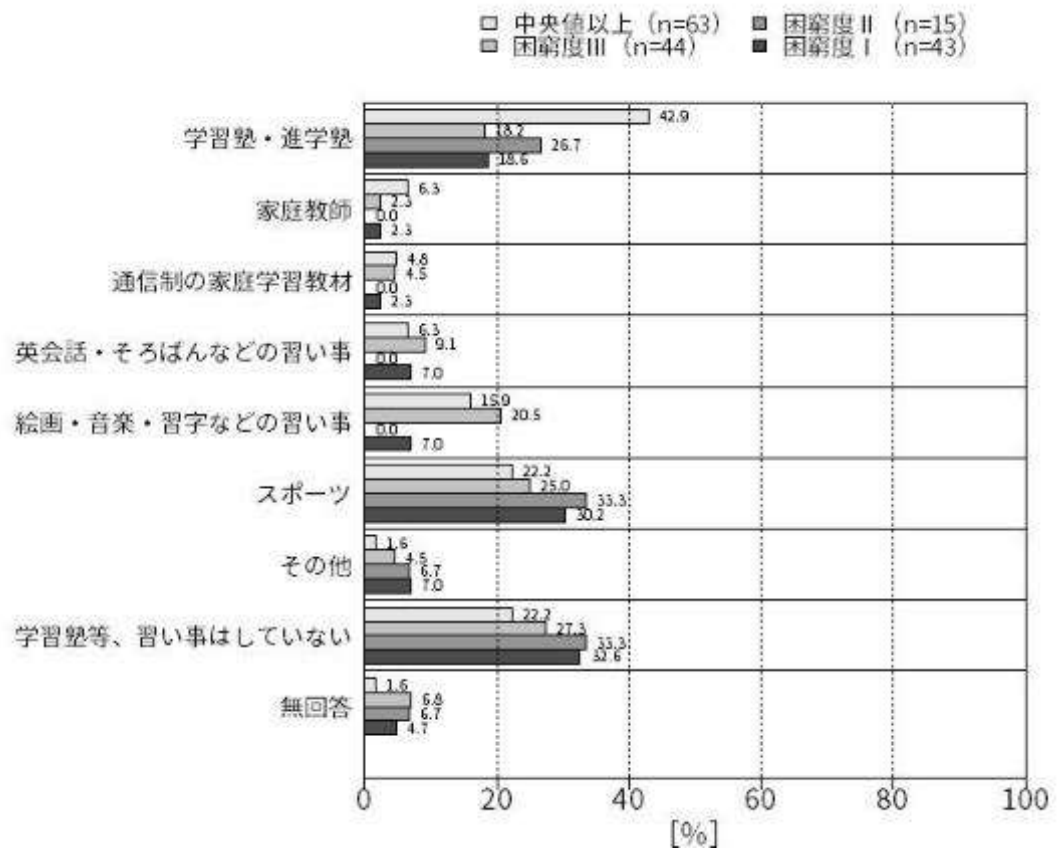
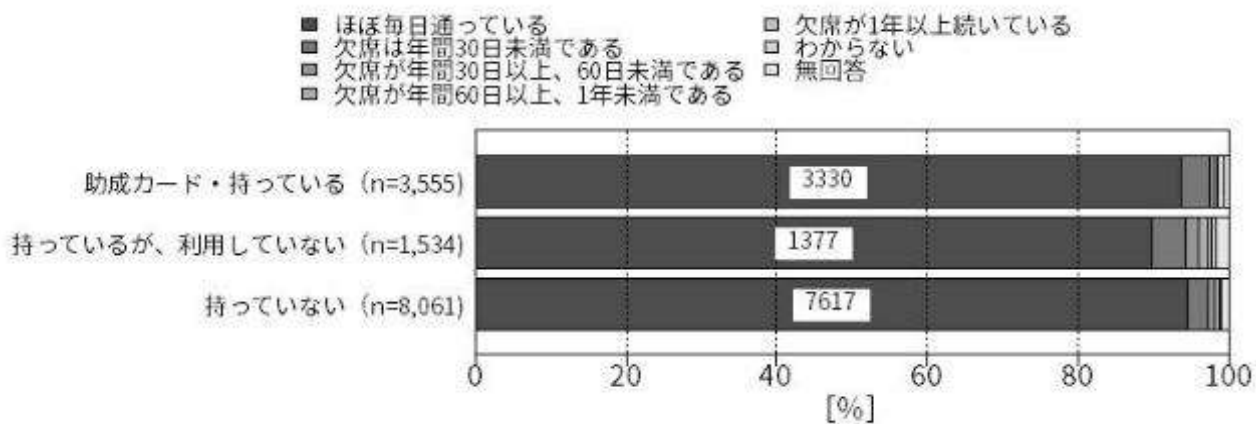


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

困窮度Ⅰ群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が18.6%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では26.7%、困窮度Ⅲ群では18.2%であった。困窮度が高まるにつれて「学習塾等、習い事はしていない」と回答する割合が高まる傾向にあり、困窮度Ⅰ群では32.6%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況（保護者票 問 18 × 保護者票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

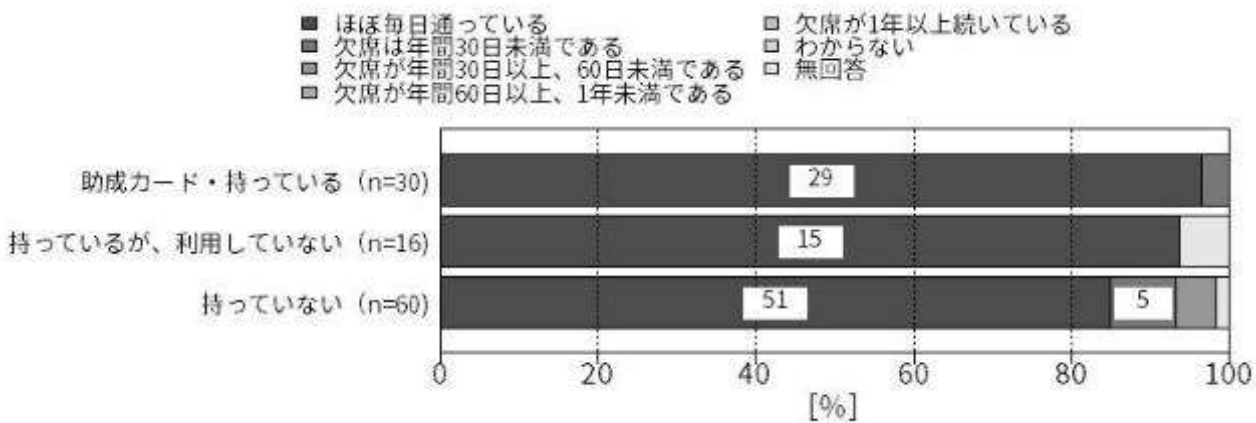
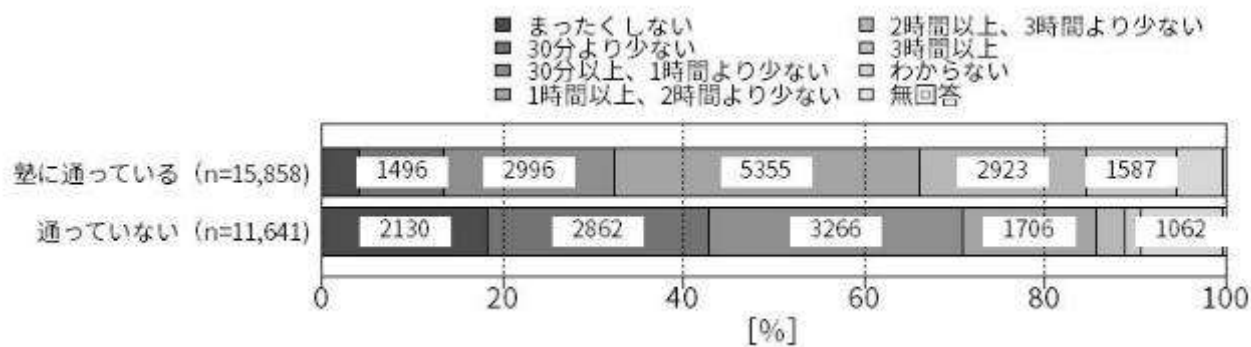


図 217. 塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況

塾助成カードの所持状況によって、通学状況に大きな差は見られなかった。

学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 15 × 子ども票 問 14）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

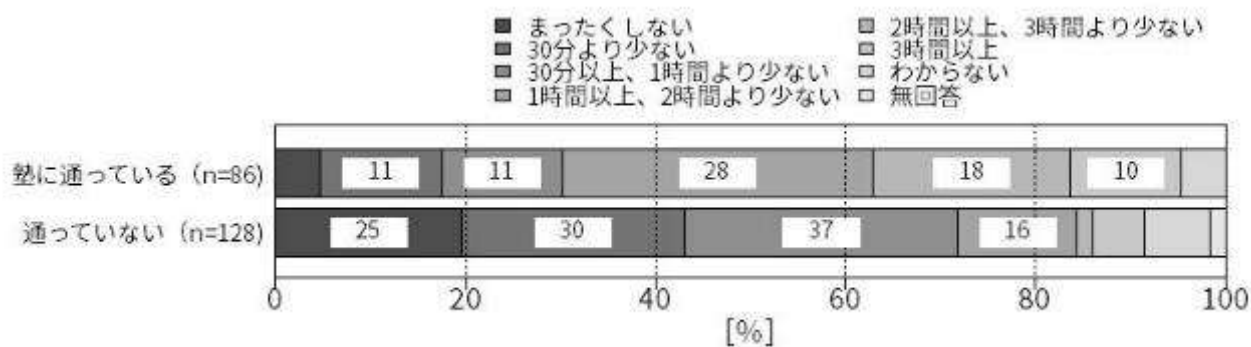
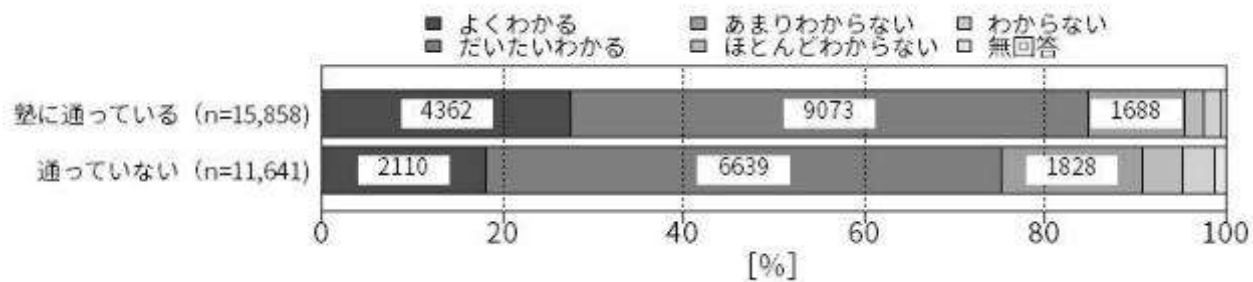


図 218. 学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間

勉強を中心とした塾に通っていない人は、授業時間以外に勉強を「まったくしない」が19.5%であったのに対し、塾に通っている人は4.7%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度（子ども票 問15 × 子ども票 問18）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

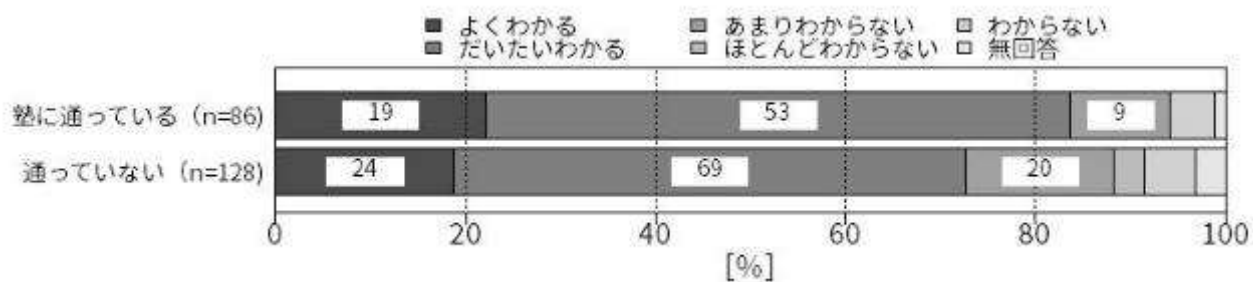
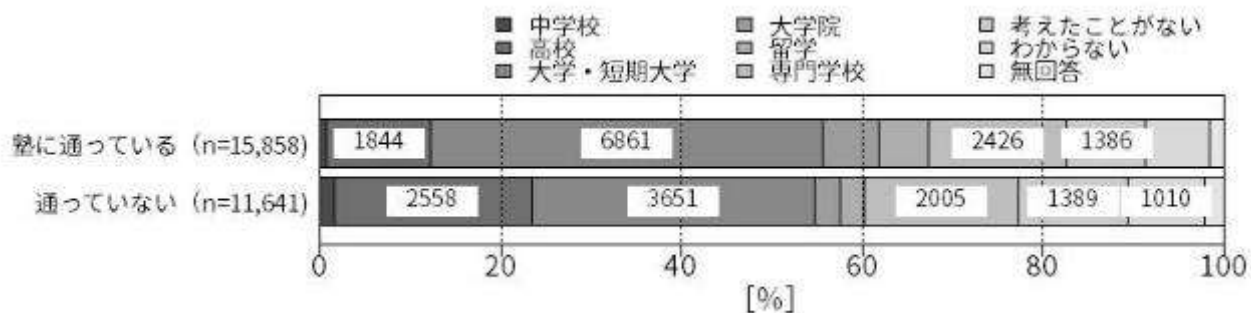


図 219. 学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度

勉強を中心とした塾に通っていない人は、学校の勉強が「よくわかる」と答えた割合が18.8%であったのに対し、塾に通っている人は22.1%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先（子ども票 問 15 × 子ども票 問 27）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

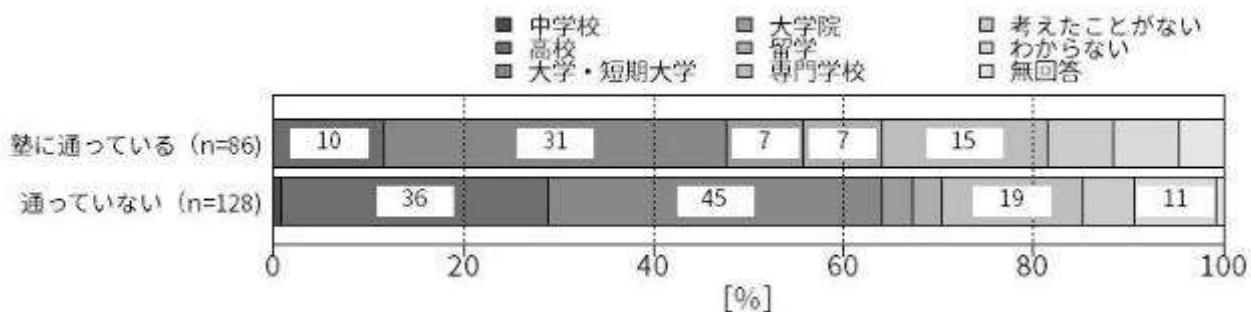


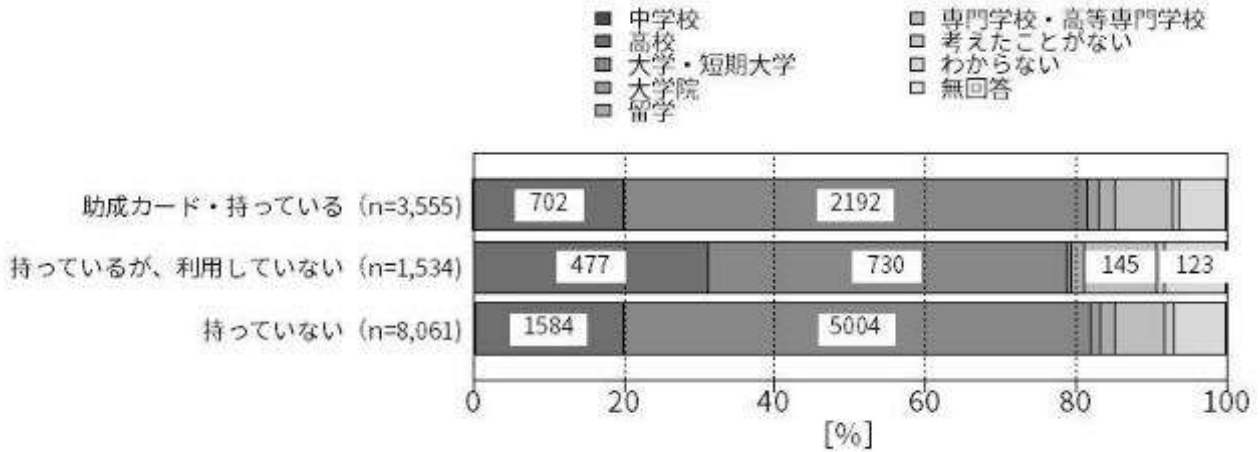
図 220. 学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先

勉強を中心とした塾に通っていない人は、「大学・短期大学」まで行きたいと答えた割合が 35.2%であったのに対し、塾に通っている人は 36%であった。通っていない人は、「高校」までと回答した割合も高く 28.1%だった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

(保護者票 問 18 × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

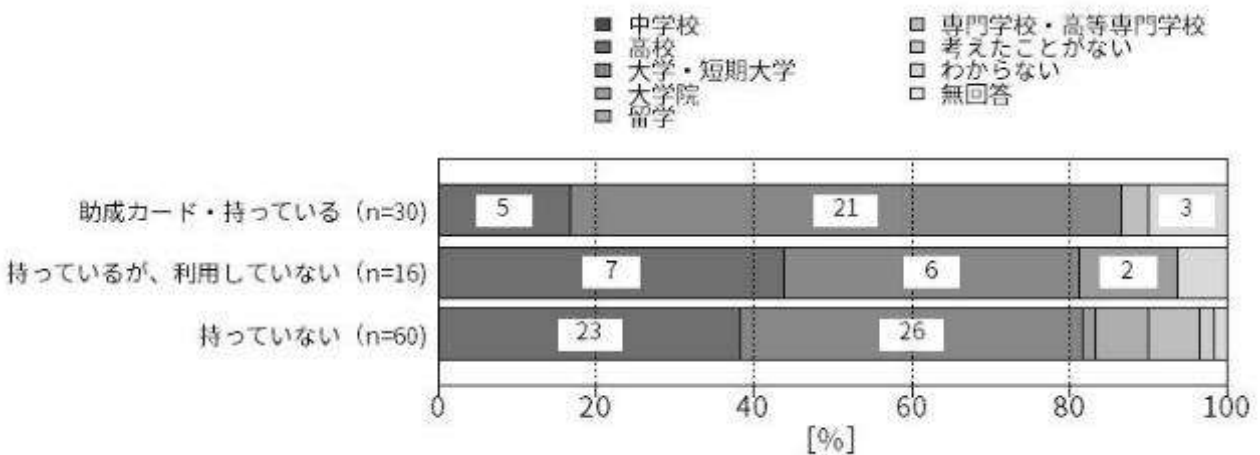


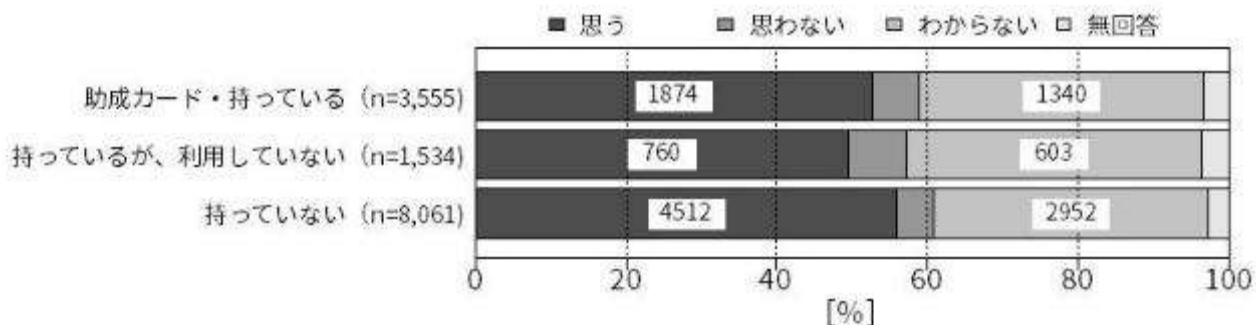
図 221. 塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

塾代助成カードを持っていない人は、子どもの進学先について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 43.3%であったのに対し、持っているが利用していない人が 37.5%、持っている人が 70%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問 18 × 保護者票 問 16)

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

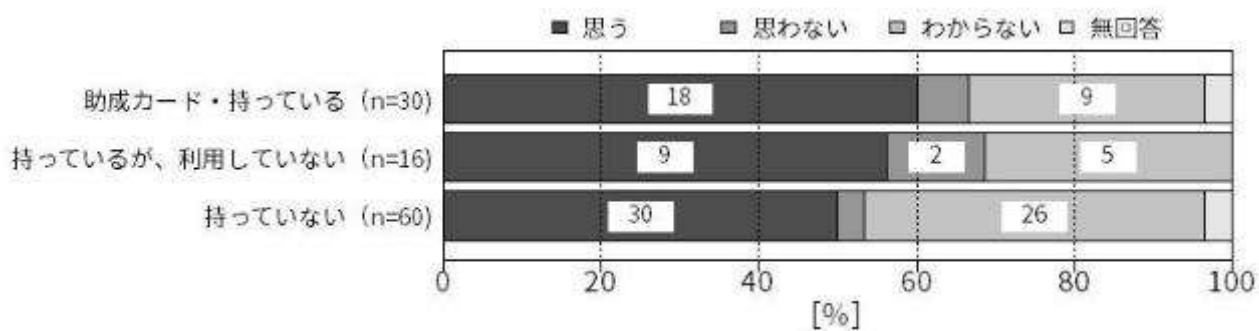
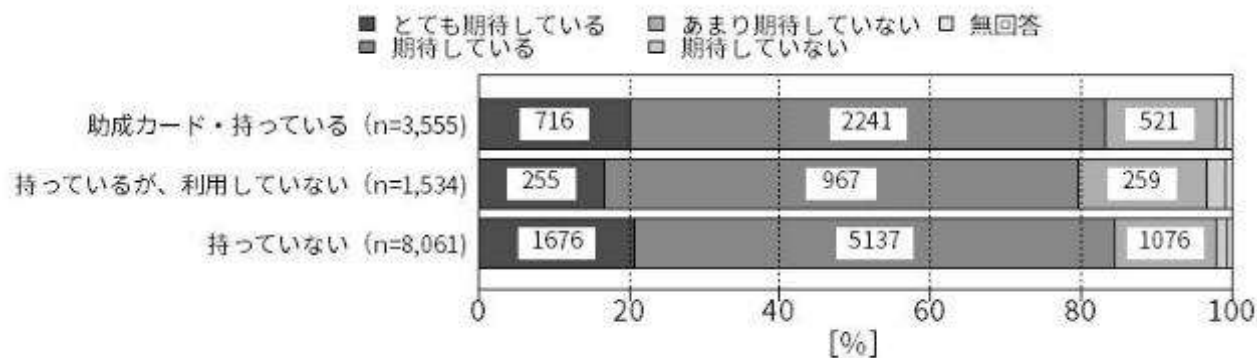


図 222. 塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

塾助成カードを持っていない人は、子どもが希望どおりの学校まで進むと思うと回答した割合が 50%であったのに対し、持っているが利用していない人が 56.3%、持っている人が 60%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）  
 （保護者票 問 18 × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

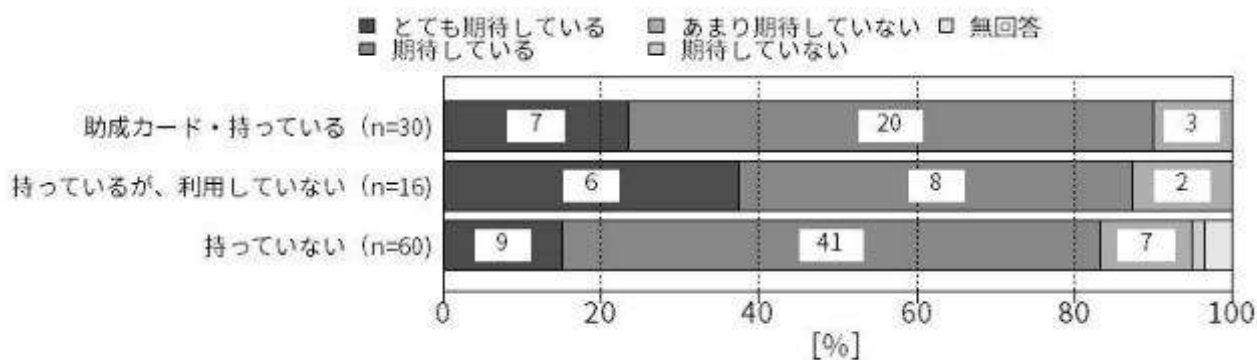


図 223. 塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （子どもへの将来の期待）

塾代助成カードを持っていない人は、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が 15% であったのに対し、持っているが利用していない人が 37.5%、持っている人が 23.3%であった。

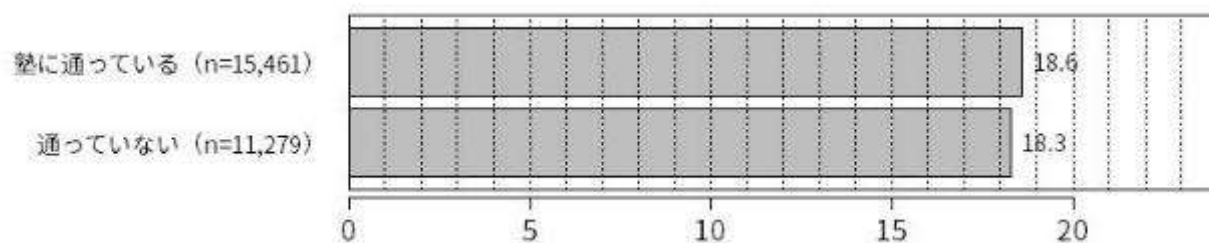


学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 15 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

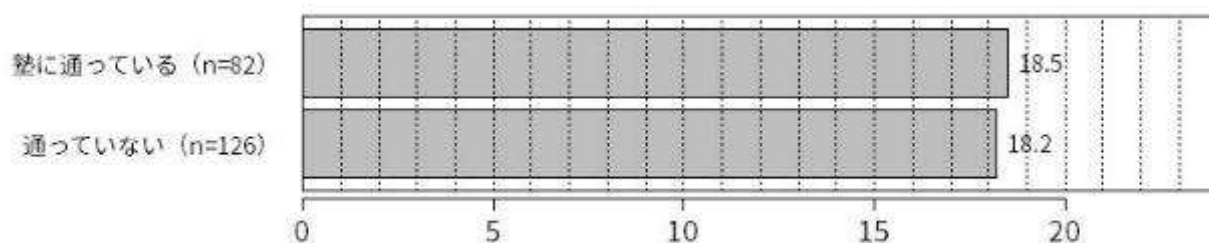
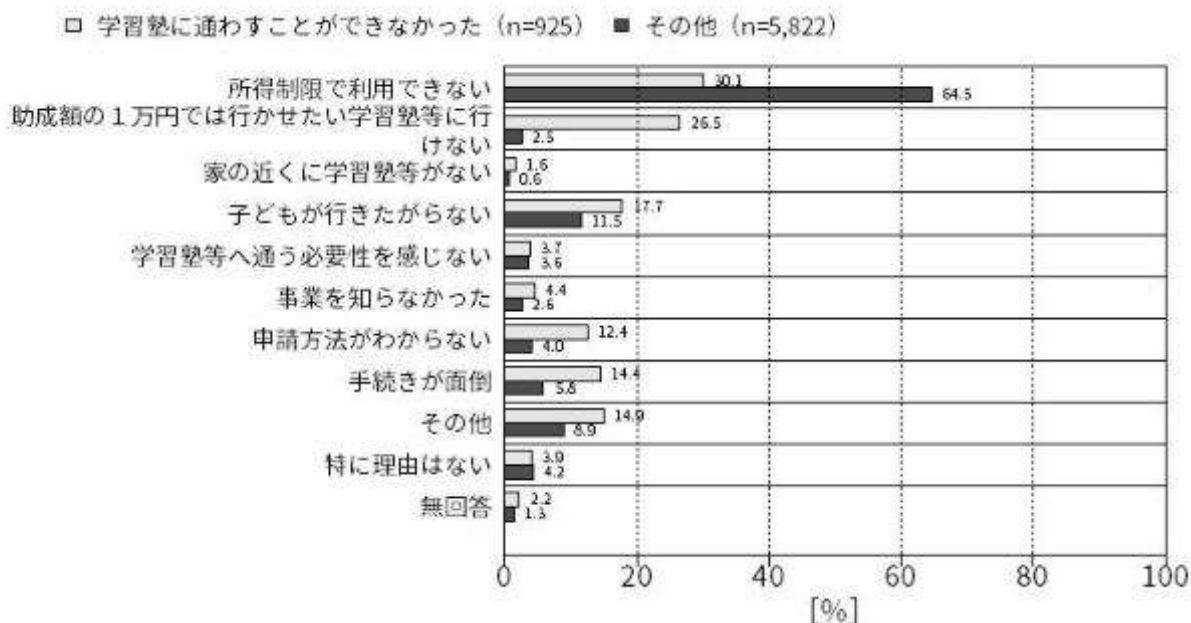


図 224. 学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

勉強を中心とした塾に通っていない人は、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 18.2 点であったのに対し、塾に通っている人は 18.5 点であった。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、塾代助成カードを持っている理由  
 (保護者票 問 13 の 9 × 保護者票 問 20)

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

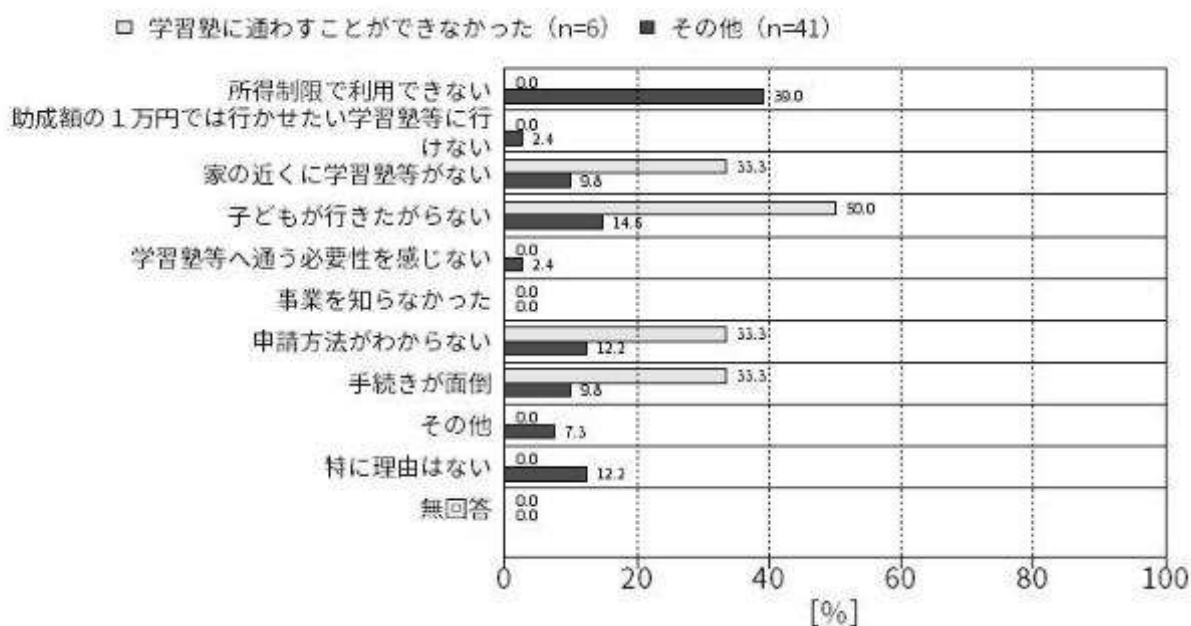
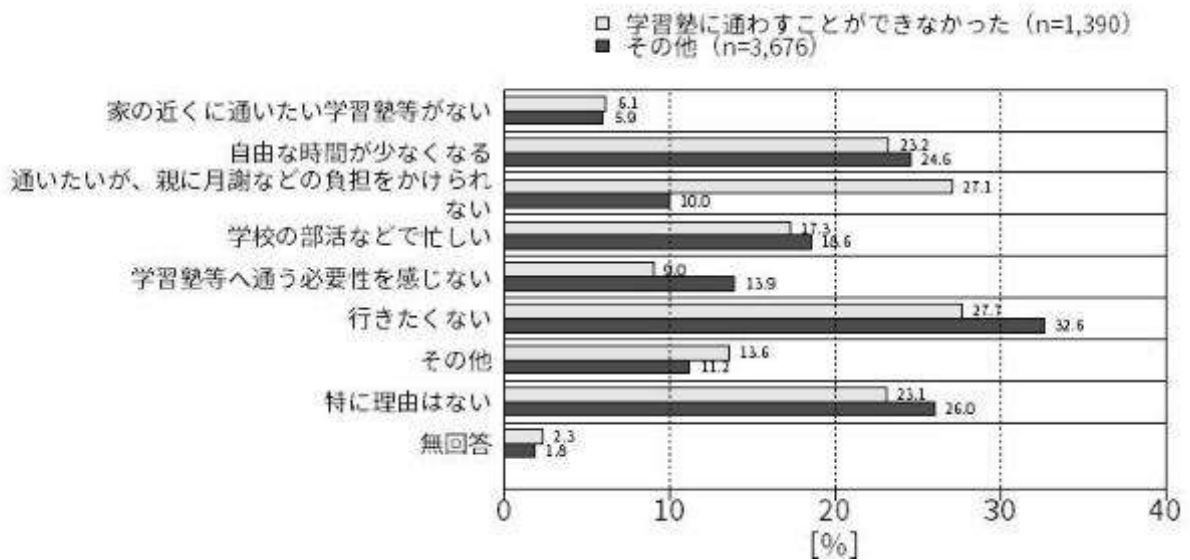


図 225. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「子どもが行きたがらない」という理由で塾代助成カードを持っていない人が 50%と最も多かった。また「申請方法が分からない」33.3%、「手続きが面倒」33.3%という意見もあった。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由（保護者票 問13の9 × 子ども票 問17)

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

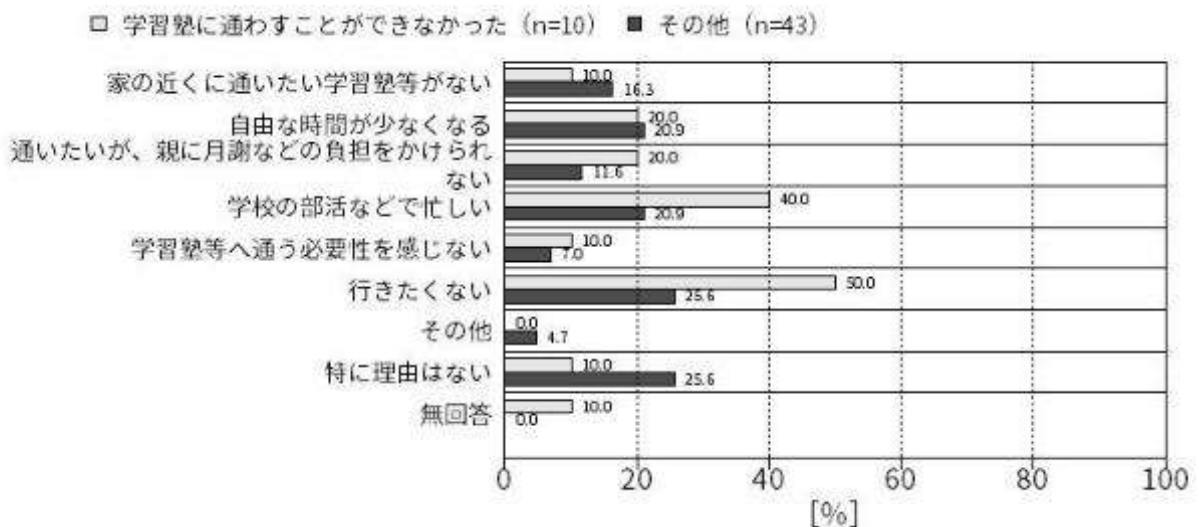


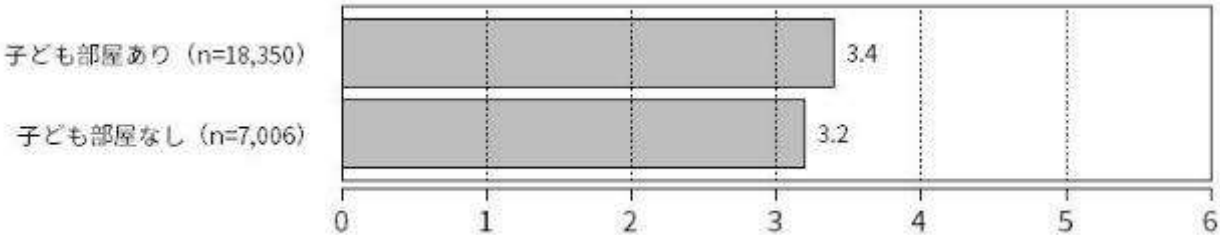
図 226. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「行きたくない」という理由が50%と最も多かった。また「学校の部活などで忙しい」という回答も40.0%と高かった。

子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値（子ども票 問 25 の 3 × 子ども票 問 14）

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた（「7. わからない」は除く）。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

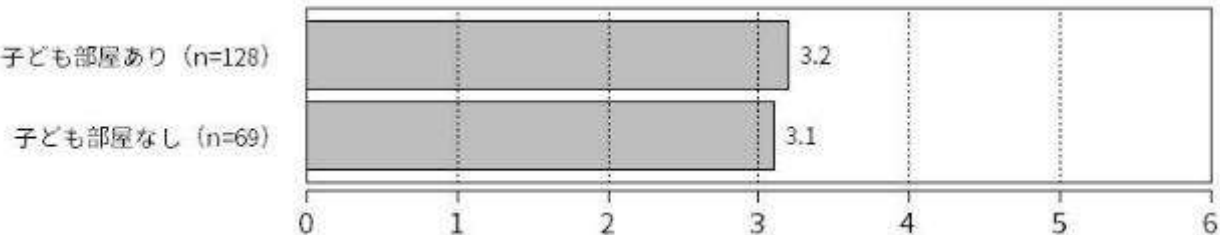
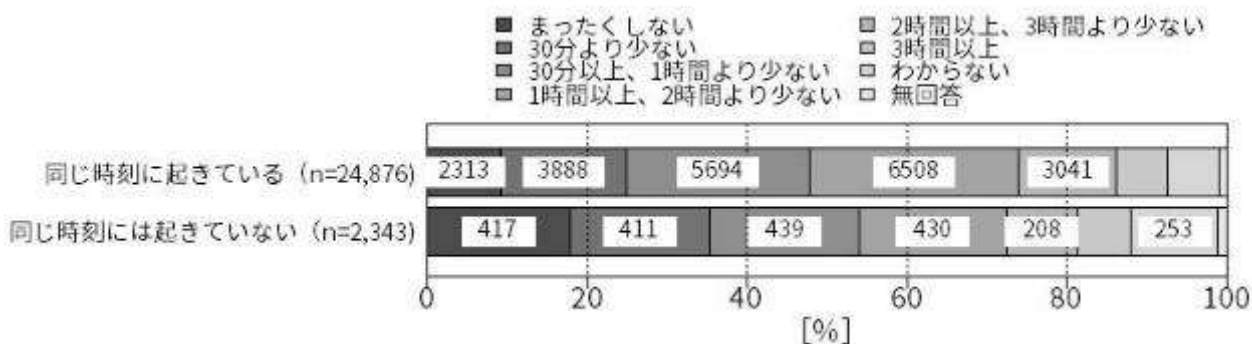


図 227. 子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値

子ども部屋がある場合は 3.2 時間、子ども部屋がない場合は 3.1 時間であった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問2 × 子ども票 問14）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

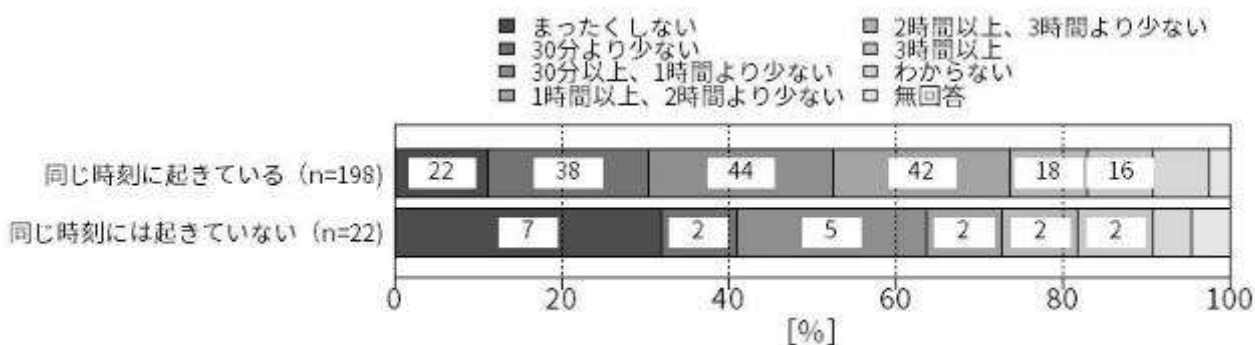


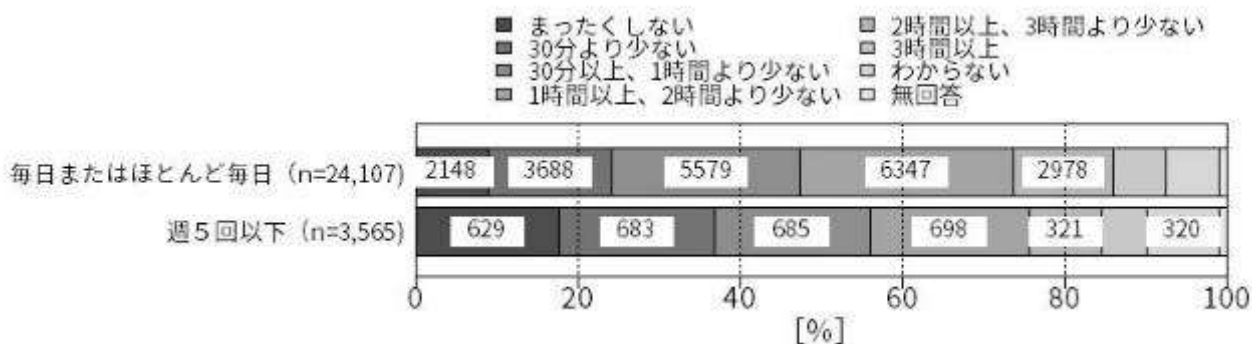
図 228. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問2において「起きている」「どちらかと言えば、起きている」と回答した子どもを「同じ時刻に起きている」、「あまり、起きていない」「起きていない」と回答した子どもを「同じ時刻には起きていない」としている。

起床時間の規則性別に授業以外の勉強時間を見ると、「同じ時刻に起きている」子どもの方が、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した人の割合が高い。「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は31.8%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問5(1) × 子ども票 問14)

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

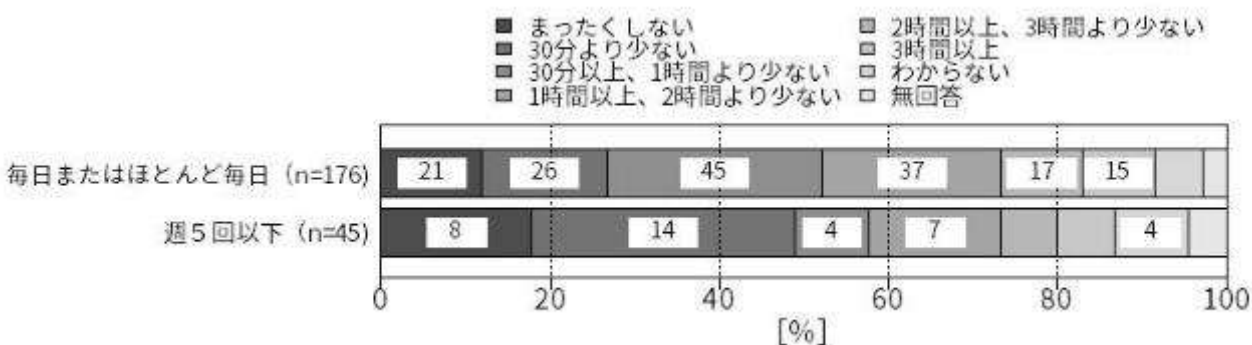


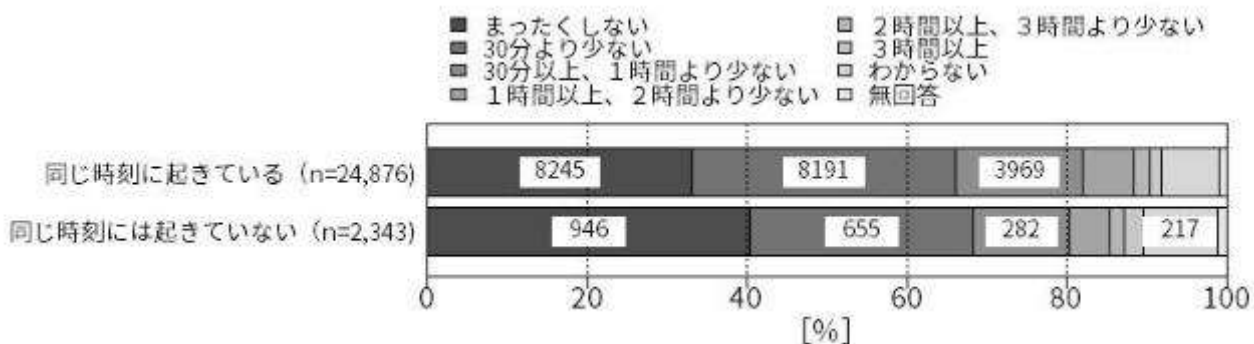
図 229. 朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問5において「毎日またはほとんど毎日」と回答した子どもを「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週5回以下」としている。

朝食の頻度別に授業以外の勉強時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは14.8%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ25.6%、21.0%、9.7%であった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問2 × 子ども票 問19）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

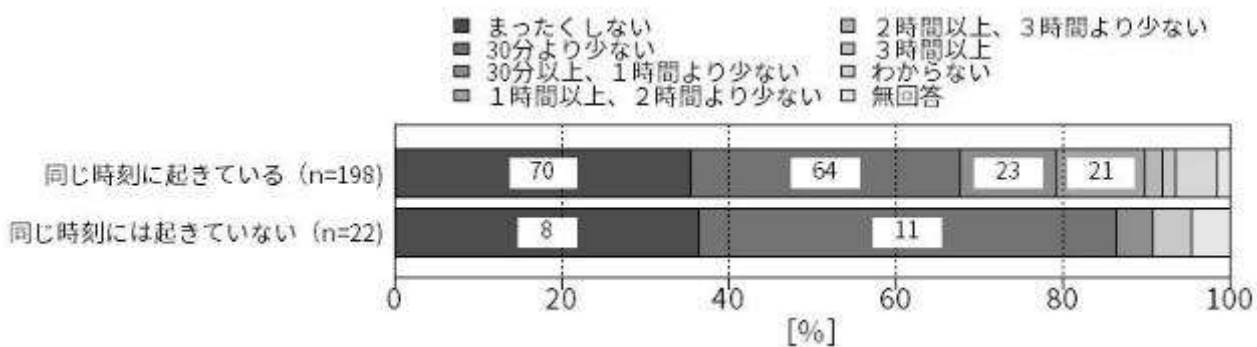
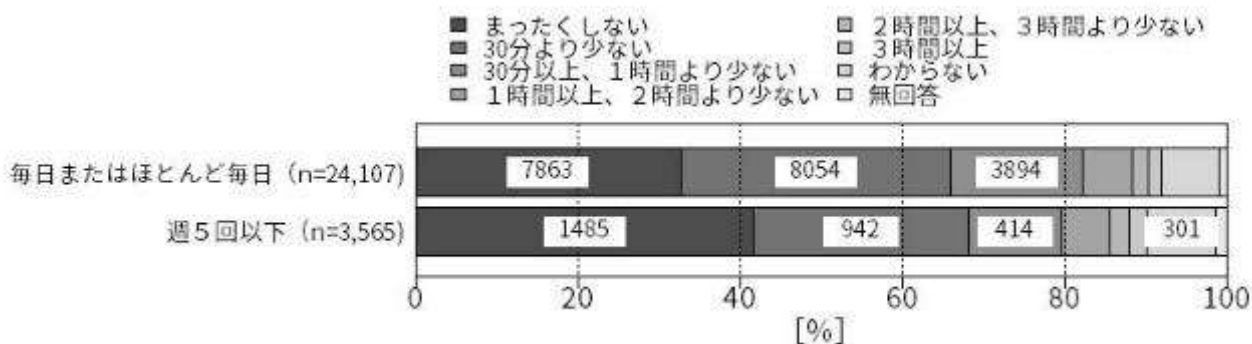


図 230. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は36.4%であった。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問5(1) × 子ども票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

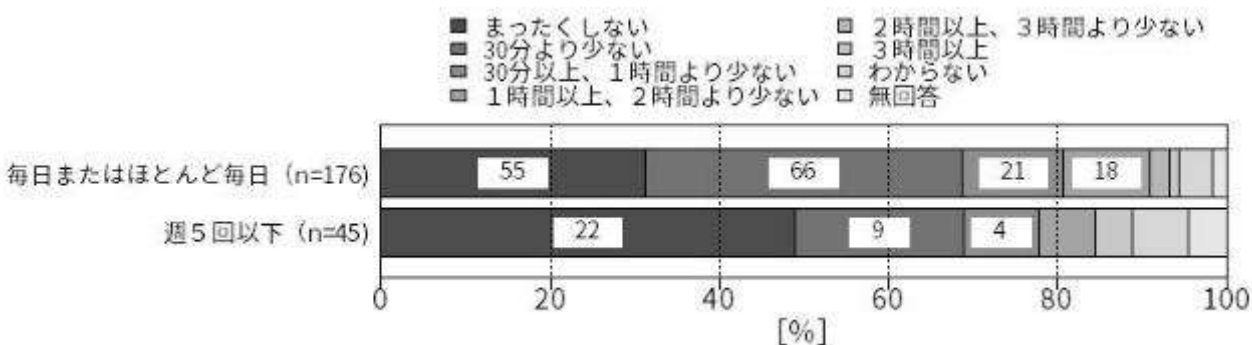


図 231. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

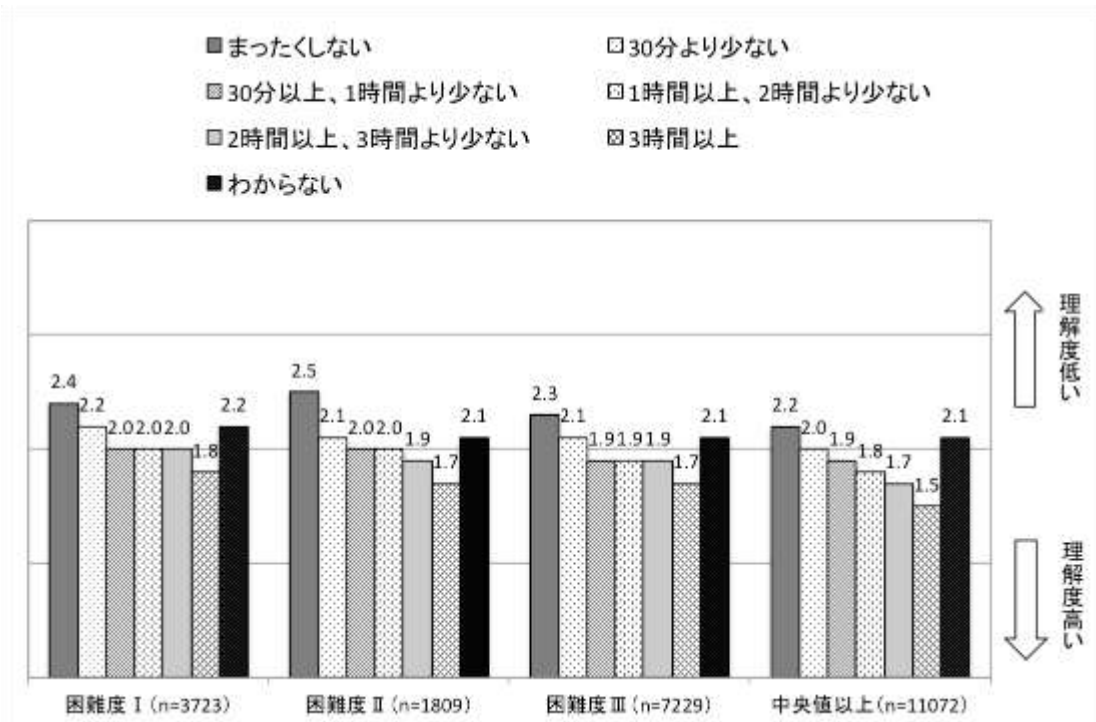
朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは31.3%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ11.9%、10.2%、2.3%であった。



困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（子ども票 問 18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで4項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

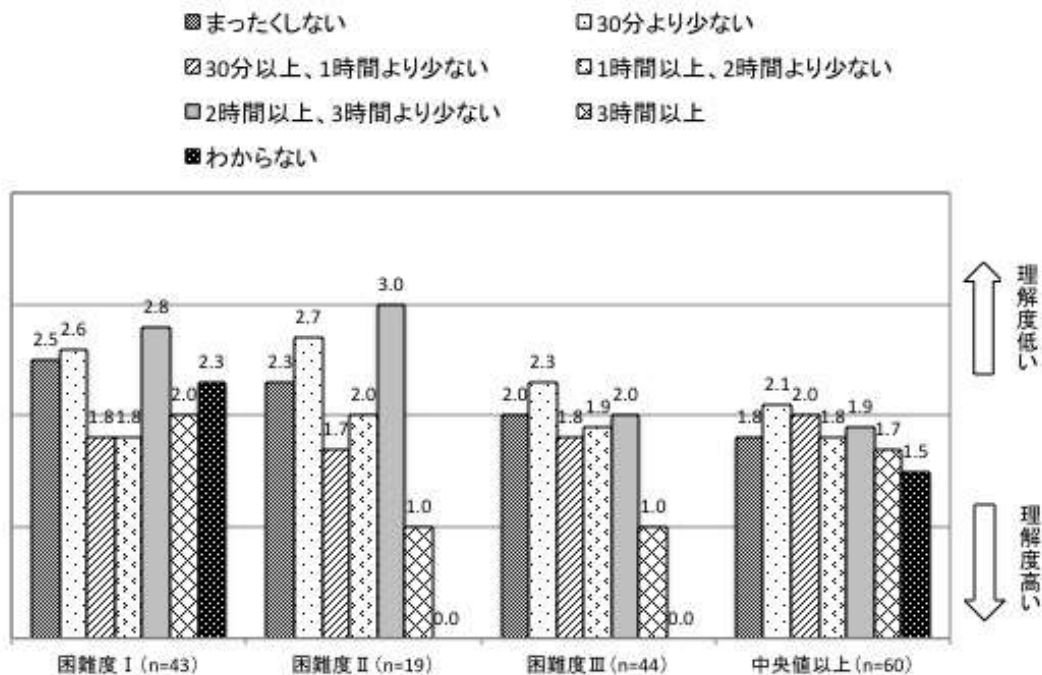


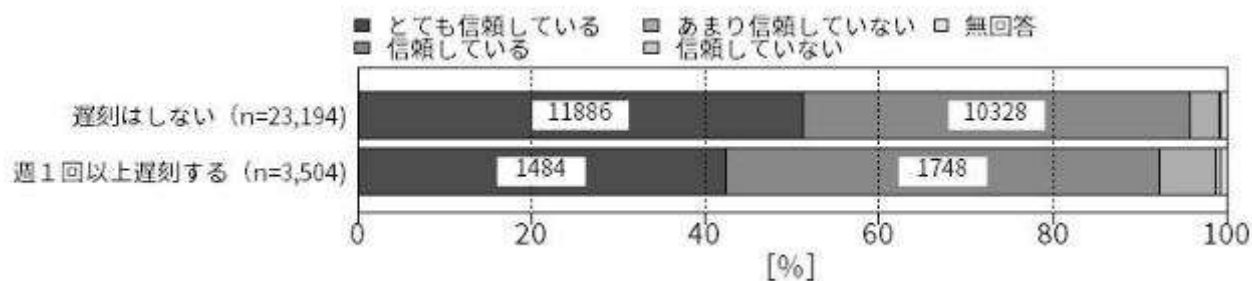
図 232. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連

困窮度群に対し、中央値以上群の方がいずれの勉強時間においても理解度が高かった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

（子ども票 問9 × 保護者票 問14(1)）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>



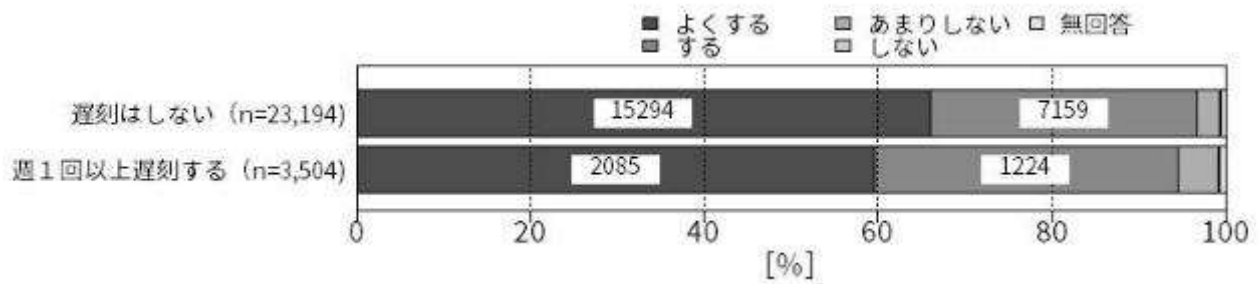
図 233. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「信頼している」割合が3.0%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は「あまり信頼していない」割合が6.1%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）  
 （子ども票 問 9 × 保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

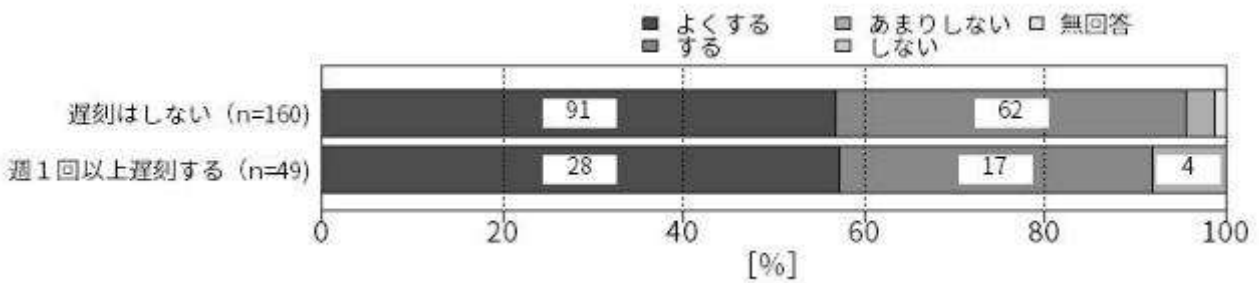


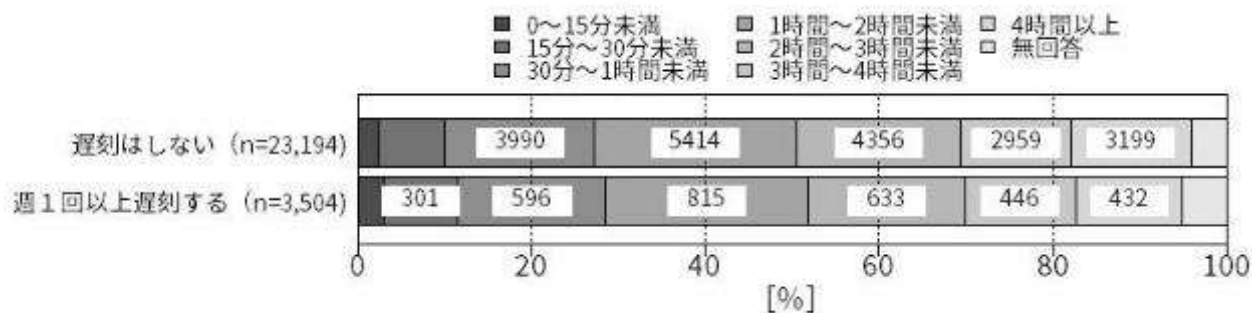
図 234. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は会話を「あまりしない」割合が8.2%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））  
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

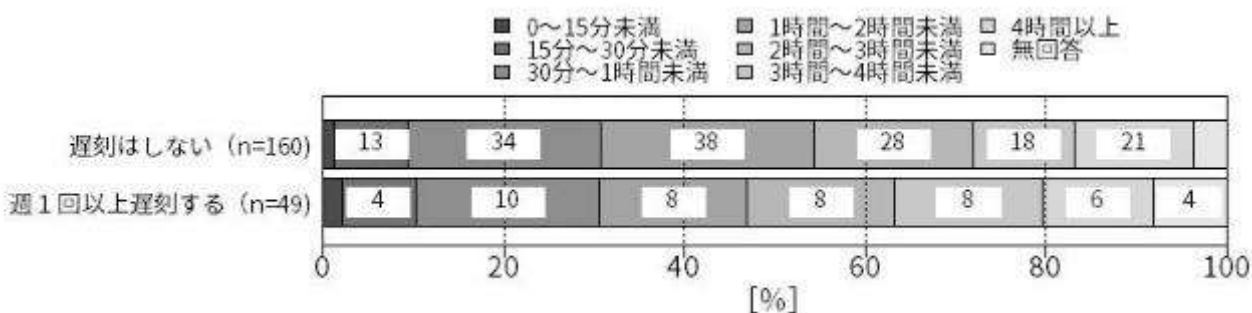
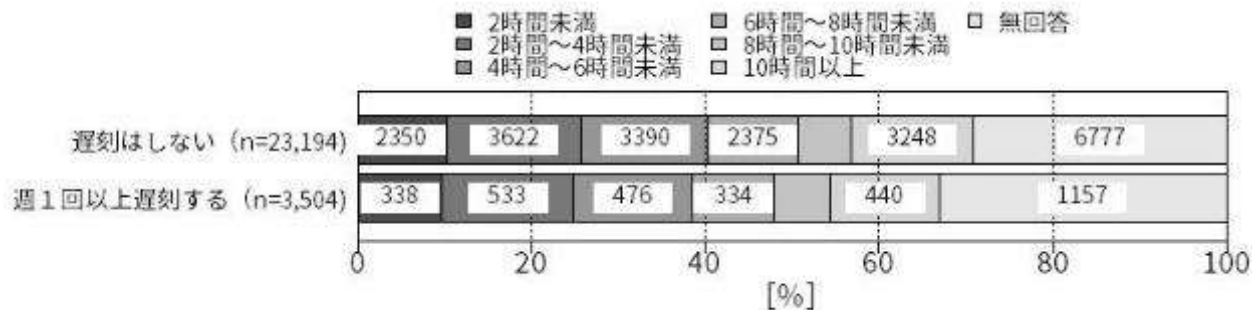


図 235. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （子どもと一緒にいる時間（平日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「1時間～2時間未満」の回答において、「遅刻はしない」子どもにおいては23.8%だったが、「週1回以上遅刻する」のが16.3%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））  
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

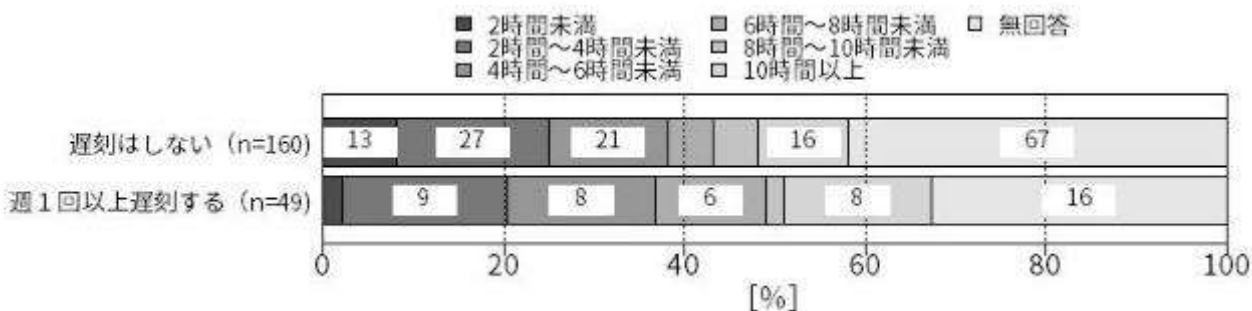


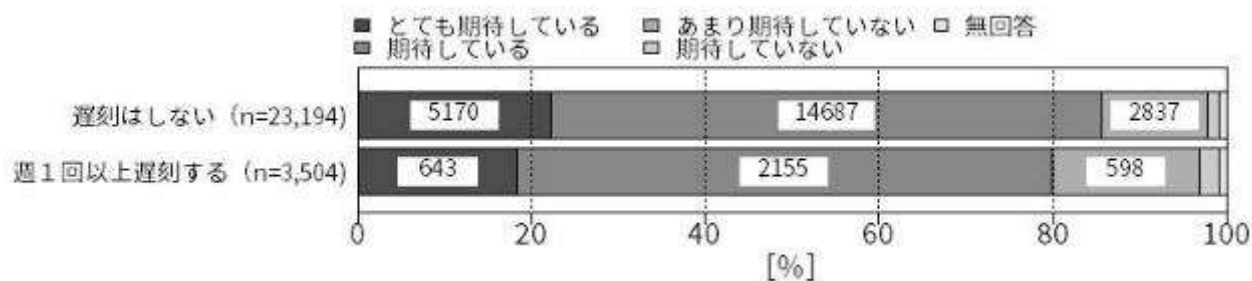
図 236. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （子どもと一緒にいる時間（休日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「2時間未満」「2時間～4時間未満」「4時間～6時間未満」の割合は、それぞれ 8.1%、16.9%、13.1%、であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、「2時間未満」「2時間～4時間未満」「4時間～6時間未満」の割合は、それぞれ 2.0%、18.4%、16.3% であった。また、いずれも無回答の割合が高かった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

（子ども票 問9 × 保護者票 問14(4)）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

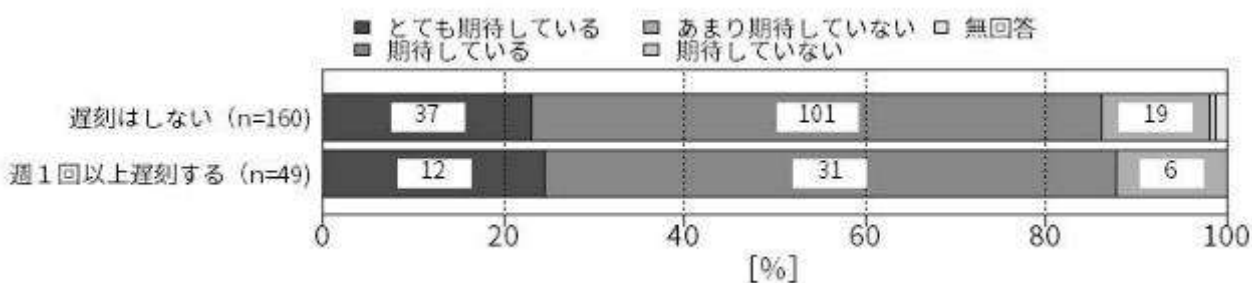
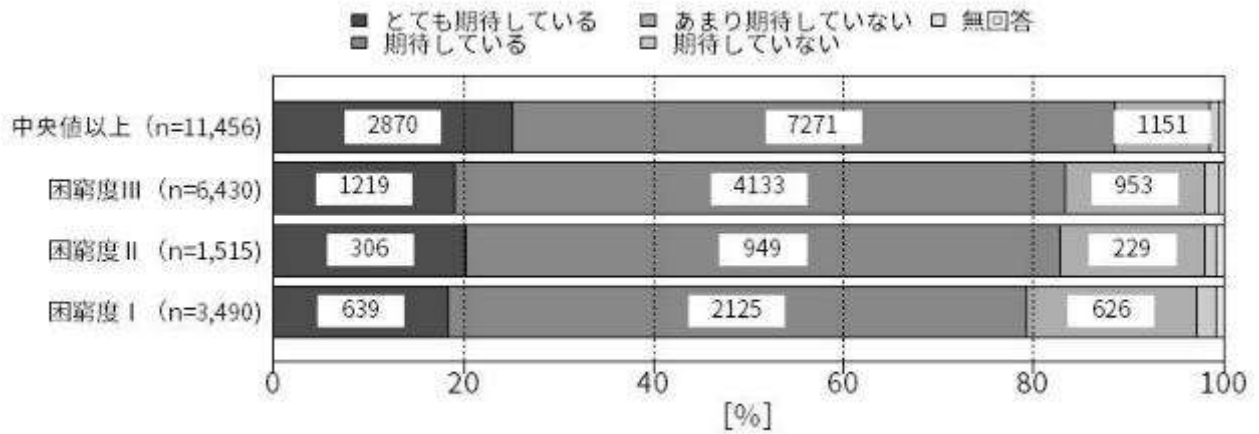


図 237. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は子どもの将来に「ととても期待している」割合は、23.1%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、24.5%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）  
 （保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

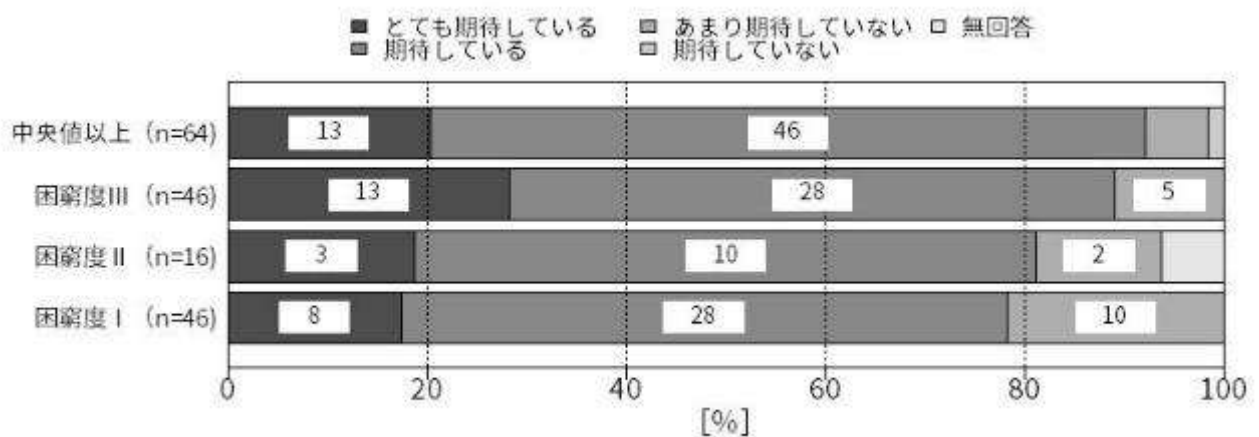
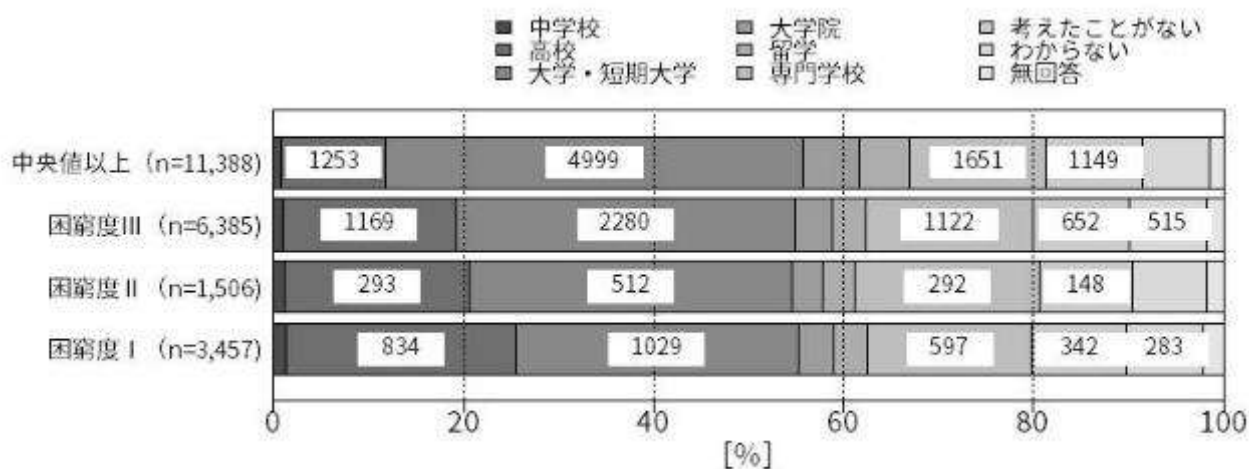


図 238. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「あまり期待していない」が増えている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「あまり期待していない」「期待していない」を合計すると 21.7%であった。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票 問 27）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

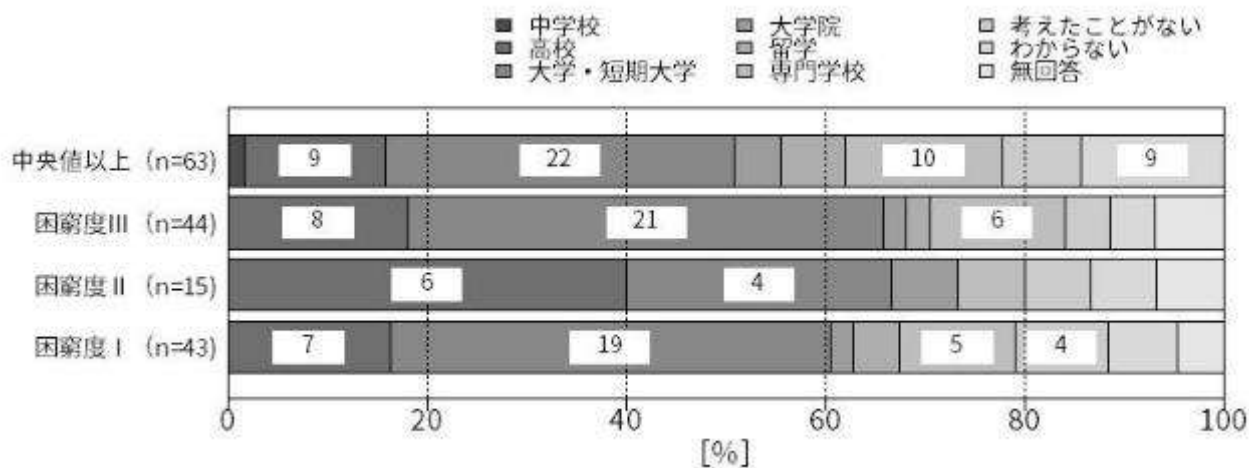


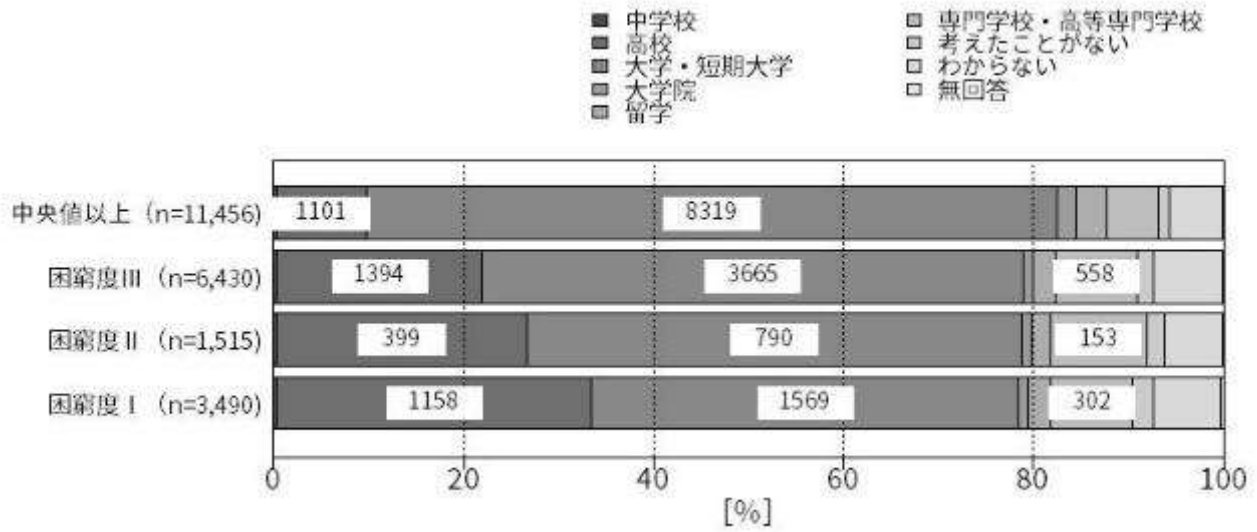
図 239. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計 16.3%、「専門学校」と回答した子どもは 11.6%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は、34.9%であった。



困窮度別に見た、子どもの進学予測（保護者票 問15）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

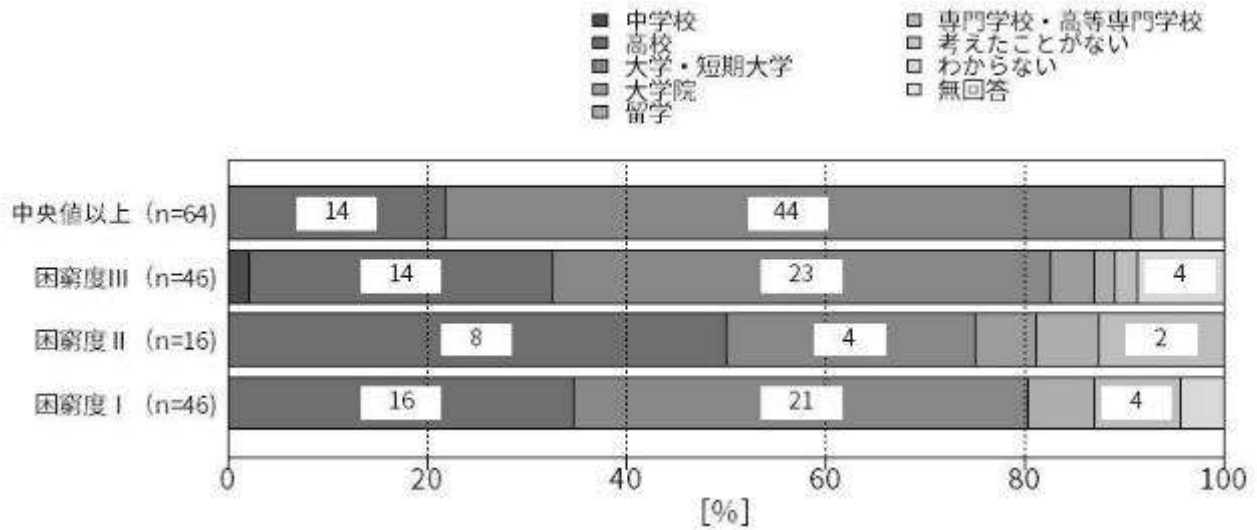
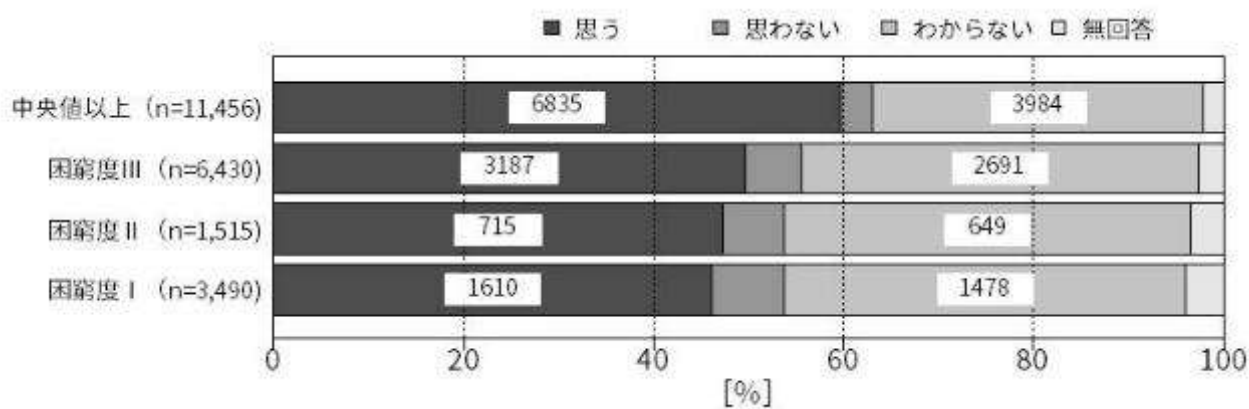


図 240. 困窮度別に見た、子どもの進学予測

困窮度別に子どもの進学予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した人は合計 34.8%、「専門学校」と回答した人は 8.7%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は、68.8%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学達成予測（保護者票 問 16）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

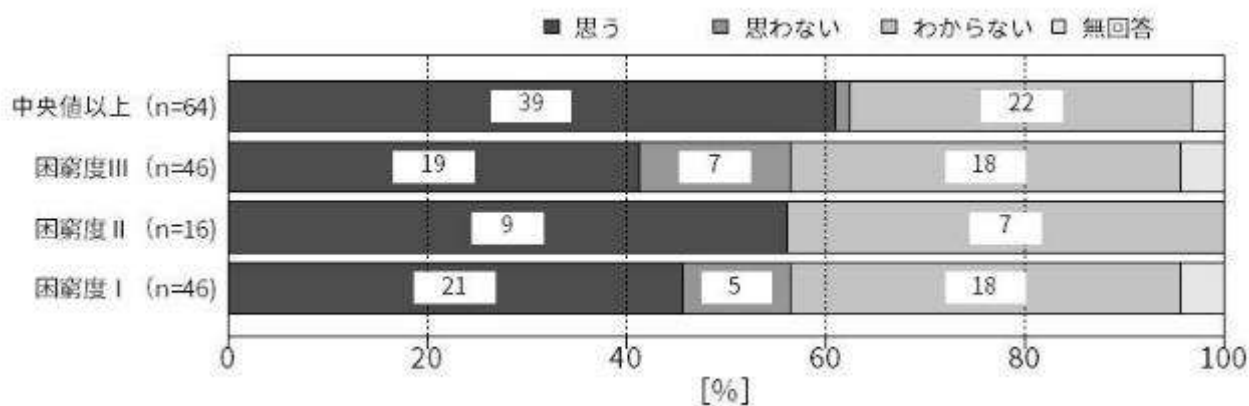
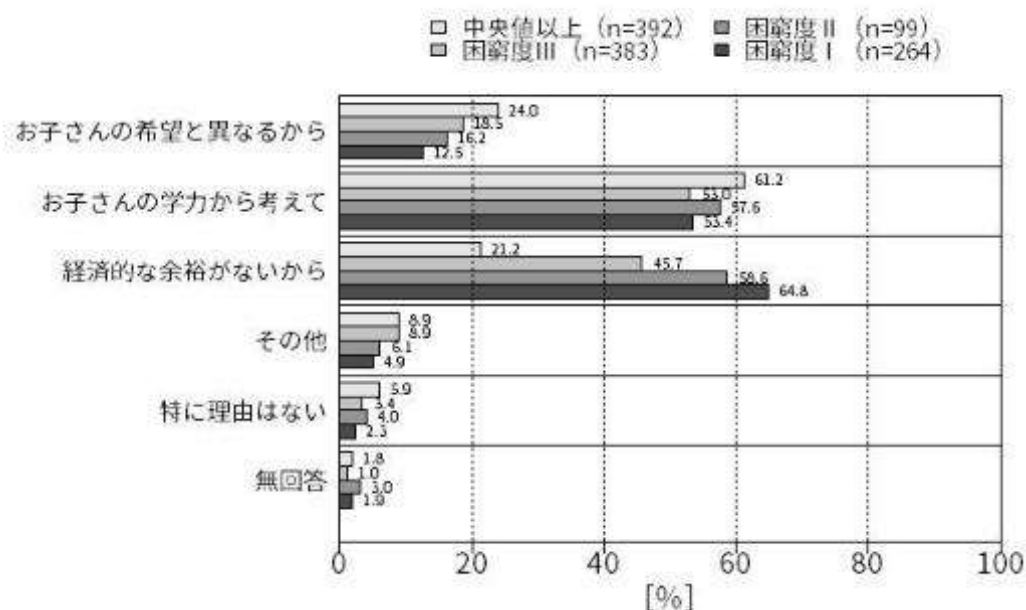


図 241. 困窮度別に見た、子どもの進学達成予測

困窮度別に子どもの進学達成予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「思う」と回答した保護者の割合が低くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「思う」と回答した人は45.7%であった。中央値以上群において「思う」と回答した割合は60.9%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由（保護者票 問17）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

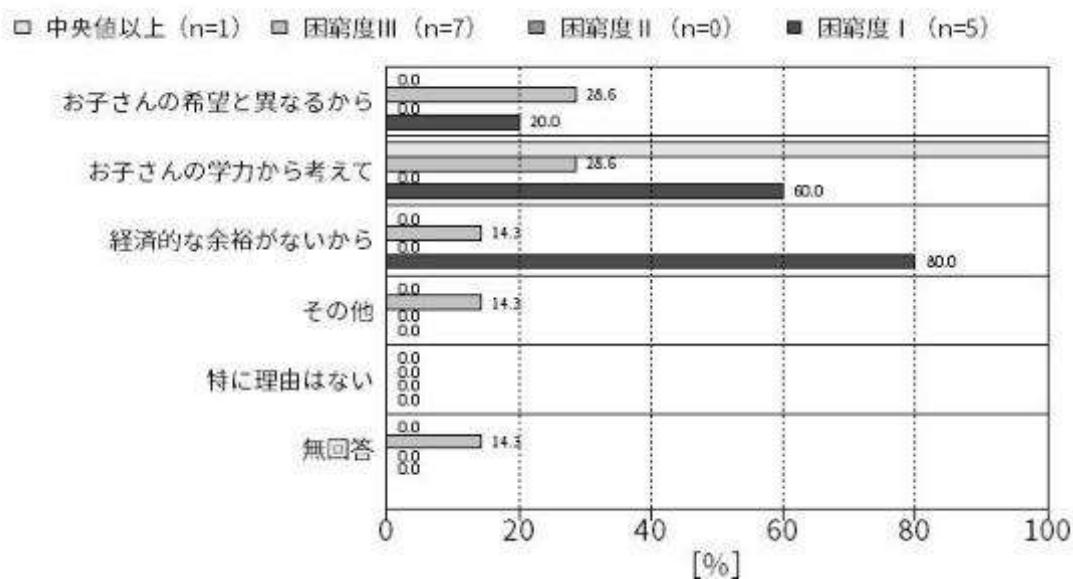
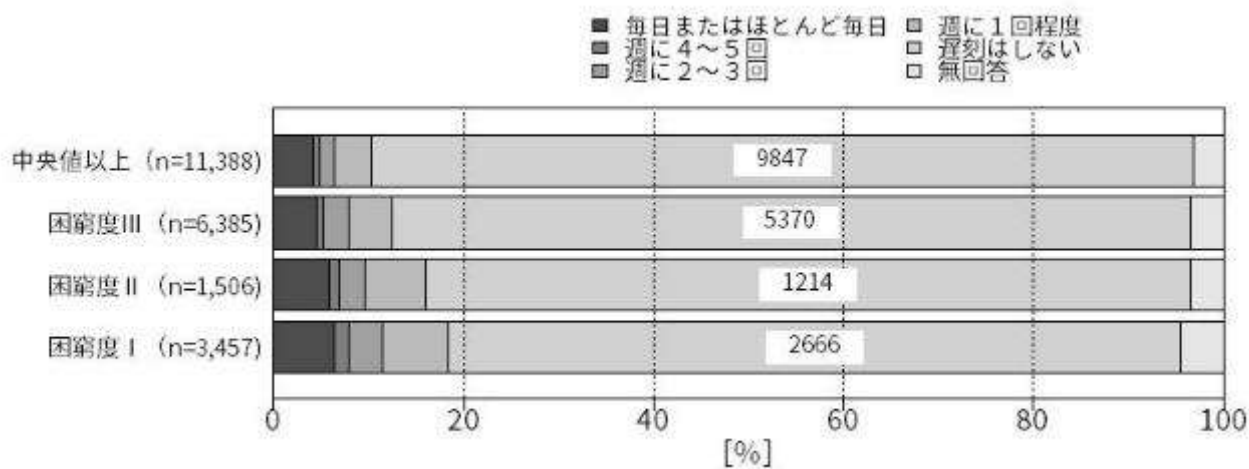


図 242. 困窮度別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

困窮度別に子どもの進学達成「思わない」理由（保護者による）を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群とで最も差が大きいのは「経済的な余裕がないから」、次いで「お子さんの学力から考えて」である。困窮度 I 群において「経済的な余裕がないから」と回答した人は 80%であった。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票 問9）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

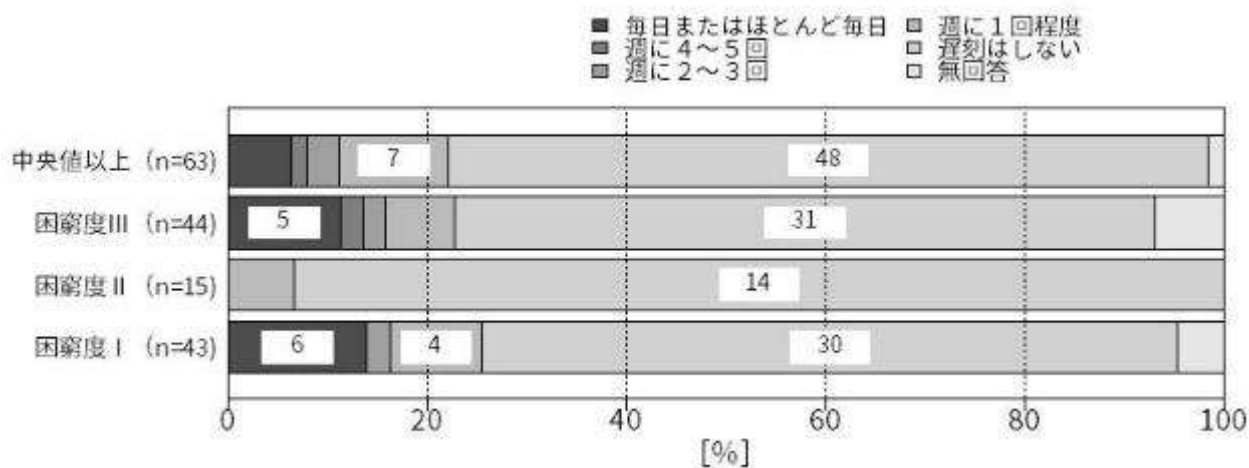


図 243. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増える傾向にある。困窮度Ⅰ群では、週に1回以上遅刻をする割合は25.6%であった。